



第12回、訪日研修

～スウェーデン高校生～

本誌4月号で紹介した「スウェーデン・トンバ高校訪日研修」は、平成21年に在スウェーデン日本国大使館の紹介を受け、以後、IFAが実施運営している。4月8日から23日の日程で、同校で日本語を専攻する2年生6名、3年生2名が引率の先生と来日し、関係者のご協力の下、様々な経験をした。

1週目に日本事情オリエンテーションと都内視察、2週目には東京と神奈川の受入高校8校のご協力の下、ホームステイと学校体験を行い、日本の文化や生活習慣を学んだ。研修の様子と生徒の感想を以下で紹介する。

●研修プログラム

1日目、夕刻に宿舎に到着した一行の初めての日本体験は、最寄り駅に歩いて行き、駅前の唐揚げ屋さんでの夕食。日本語で注文することに挑戦した。

2日目は、終日オリエンテーション。日本理解講義、「日本人理解のヒント」では、英語のYes, Noと日本語の「は

い、いいえ」の違いは、相手を慮る日本人の考え方に由来することなどを学び、質問も活発だった。スウェーデンでは多言語を学習している彼らにとり、日本人の言葉や行動、価値観などを知る機会となった。「日本の生活習慣」では、日常生活のスライドを見ながら、この後に始まる1週間の日本の家庭、高校での生活について再確認した。

3日目に、バス、電車の乗り方など実地研修を兼ねて都内視察。同校と交流のある明治大学国際日本学部ゼミを訪問して学生との交流に、皆、目を輝かせていた。



スウェーデン大使館表敬訪問

4日、5日目は、東京国立博物館で日本美術に触れたり、在京スウェーデン大使館を表敬訪問。スウェーデン発祥の家具屋IKEAでは職場体験もできた。聖心女子大学の学生とは渋谷で夕食をしたりと、盛りだくさんのプログラムだった。

6日から7日目の1泊の箱根視察では、寄木細工で伝統工芸を体験後、旅館に宿泊し、畳部屋で浴衣に着替え、お

風呂の入り方、布団での就寝など、日本の生活を学んだ。翌日、芦ノ湖から見えた富士山には歓喜の声があがった。

●日本の学校体験とホームステイ

8日目、週末に緊張の面持ちの中、ホスト家庭との対面式では、家族に笑顔で温かく迎えられ喜び笑顔。1週間のホームステイと学校体験を開始した。

満員電車での登校、クラスでの自己紹介や講堂でのスウェーデンについての発表、通常授業やクラブ活動への参加など、古文など難しい日本語に苦労しながらも、新たなことに挑戦した。毎日遅くまで授業やクラブ活動の続く日本の高校生活は、本国とは全く違うと口々に話しながらも、皆、積極的に日本の生活に溶け込み、日本語を学び、多くの日本の生徒と会話を交わし、友達、そして日本の家族と親しんだ。

過去11回の参加者には再来日する者や大学で日本語を学び続ける生徒もあり、今後の活躍が期待される。

●参加者の感想

- ◇これまで知らなかった日本の歴史を学ぶことができた。
- ◇この研修を通じて、日本文化と生活様式の知識を深めることができた。
- ◇学校生活はとても楽しく、温かく迎えられるのを感じた。
- ◇ホストファミリーが娘のように接してくれて、とても嬉しかった。
- ◇日本語は難しいが、この研修が日本語で話す勇気を与えてくれた。

世界万華鏡

国際交流・コーディネーター おやま 小山 まゆみ 麻由実

シリーズ17 アイランドホッピング その2

前号のアイランドホッピング第1ヵ国目ジャマイカ、ブルーマウンテンUCC農場での試飲の様子です。コーヒーはとってもいい香り、飲みやすく繊細な味でした。飲みながらブルーマウンテンコーヒーについて詳しい説明を聞きます。ブルーマウンテン山脈内の標高800～1200mの特定地域で作られた豆のみが「ブルーマウンテン」と名乗っていいそうです。輸出量の80%以上が日本。コーヒーはお代わりもできて最高、大満足の農園ツアーでした。

●第2ヵ国目、トリニダード・トバゴ

短い滞在でしたがかなり満喫できたジャマイカを離れ次の国を目指し空港へ。私達が乗るのはカリビアンエアー。カリブ海をアイランドホッピングする感がグッと高まります。すっかり日も落ちた後、トリニダード・トバゴの首都ポートオブスペインに到着。有名なスチールパン(本紙、345号参照)のオブジェがお出迎えです。

泊まっていた素敵な宿から徒歩圏内に、「マグニフィセント・セヴン壮麗なる7軒」という大変気になる名前の建物があるということで、行ってみることにしました。大通り沿いに1904

年から10年に建てられた歴史的な建物が7つ並んでいる模様。イギリス植民地時代に建てられた①トリニダード・トバゴ最古の高校、②大富豪が住んでいるような屋敷、③お花も綺麗な教会、④古城といった感じの建物、⑤石像から高貴な感じが伝わってくる屋敷、他2つ。どれも立派な建物ですが、修復中で一般公開はされておらず、フェンス越しに15分位見て終了。期待を持たせるネーミングの看板ですが残念。

その先には、動物園があります。カリブ海に浮かぶ島の動物園、一体何がいるのだろうかと行ってみることにしました。最初に私達を出迎えてくれたのはカラフルで可愛い小鳥たち。緑の小さな嘴(くちばし)の長い鳥や、綺麗な色のインコなど中南米地域に来たのだなと感じる珍しい鳥を見ることができました。脱皮中の巨大なイグアナ、首に巻いて写真撮影ができる巨大な蛇、ワニも数種類。すると、大きな何かがいきなり水の中からノソ～と出てきてびっくり。正体はバク。驚いて目を疑いましたが、上から見ると可愛い顔、初めて本物を見ることができました。猿ゾーンは坂づたいに広がり、見応えがありました。哀愁漂うチンパ



ンジー。初めて見たマンドリルはとっても綺麗な色。そして動物園と言えはライオンやキリン、愛らしいブンバ(イボイノシシ)。とっても空いていて、実は穴場。想像以上に満喫しました。

●Liat (リアット) 航空の試練

美しいマラカスベイにも足を伸ばし大満喫したトリニダード・トバゴから次の国バルバドスへ。出発ゲートに来ると、何やらボソボソとアナウンスが。よく聞くと「バルバドス行きはキャンセル」と。予定掲示板はontimeなのに。どうなるのでしょうか。(つづく)

令和5年5月17日発行
 一般社団法人 国際フレンドシップ協会
 〒106-0041 東京都港区麻布台3-4-12
 麻布台ロイヤルプラザ703
 発行責任者: 及川 伊佐子
 編集: 事務局 03(3582)3021
 印刷: ダイト印刷株式会社



第12回、訪日研修

～スウェーデン高校生より～

IFAは、スウェーデン王国・ストックホルムにあるトンバ高校訪日研修を2009年より実施・運営している。コロナ禍により中断していたが、3年ぶりに来日が決定、4月8日から23日までの16日間、日本語を学ぶ高校2、3年生8名が、ホームステイをしながら日本の高校に体験入学する。ここに生徒からの挨拶文を抜粋し紹介する。

Astrid TELLEFORS (女子)

初めまして、アストリッドと申します。トンバ高校の3年生です。専攻は人文学です。私の卒業論文は、「もののけ姫」の環境分析です。趣味は音楽を聞くことと、スキーです。アルプスの山は美しいですから、アルプスやスウェーデンの北でスキーをするのが大好きです。ジブリの映画が大好きで、特に、「もののけ姫」と「風立ちぬ」が好きです。日本に行ったら、たくさん場所に行きたいですが、特にジブリ美術館に行きたいです。豪徳寺にも

行きたいです。東京にはすばらしい場所がたくさんありますが、1週間では足りません。



Vide NORDIN NOBUOKA (男子)

初めまして、私はトンバ高校の3年生です。どうぞよろしくお願ひします。まず家族について書きます。兄弟が4人います。兄は2人、姉、そして弟です。父も母も教師です。一番上の兄は大学で勉強していて、ストックホルムに住んでいます。他の兄弟はみな家にいます。次に、私の町について説明をします。ストックホルムの南のトゥリンゲに私の家があります。高校の近くですから、バスと電車で20分ぐらいかけて通います。趣味は合気道やチェスです。日本に行く時に、囲碁を学んだり、富士山に行ったり、美味しいつけ麺を食べたりしたいです。

Milla RAHMATULLAEVA (女子)

初めまして、私はミラです。17歳です。トンバ高校の2年生です。言語が大好きだから、専攻は人文学です。

スウェーデン語、英語、ロシア語とスペイン語を話します。日本語もちょっとできます。学校で2年間日本語を勉強しました。日本語は難しいですが、とても面白いです。私の趣味は音楽と映画です。休みの日には、よくゲームをして、友達と話して、絵を描いて、猫と遊びます。私は日本で、日本語を学びたいです。そして、博物館やお寺に行きたいです。また、ホストファミリーと一緒に過ごして、日本について学びたいです。日本で皆さんに会うのを楽しみにしています。

Christian HEDMAN (男子)

私の名前はクリスティアンです。17歳です。専攻は人文学です。趣味は、ドイツ語とバイクと読書です。動物が好きですが、特に、猫が大好きです。私は、日本のゲームセンターで、アーケードゲームがしたいです。日本の食べ物も試してみたいです。日本の建築を見たいです、もちろん、日本で、日本語を話します。日本で皆さんに会うのを楽しみにしています。

Maritza KOSKELA (女子)

私はセーデルテリエに住んでいます。古い町ですが、美しいです。中心部には、小さなショッピングセンターが2つあります。私は日本で、たくさん日本の食べ物を試したいです。新しい場所を見たいです。日本の文化や生活習慣について学びたいです。

(本人の手記の抜粋)

世界万華鏡

“中国便り” その6

東京大学医科学研究所

特任教授

はやし みつえ
林 光江

3月の全国人民代表大会まで続くと思われていた中国のゼロ・コロナ政策が、12月上旬に突如終了したことで、2023年には、これまでコロナ禍で落ち込んだ経済も回復するだろうという予測が増えている。一方、全国各地で毎日に行われていたPCR検査は突然そのほとんどが中止され、それまで活況を呈していた検査キットの生産企業は急遽、生産規模を縮小せざる得なくなった。突然雇用を打ち切られた労働者が、給与の不払いなどを理由にデモを起こした工場の様子も伝えられた。大量の失職者を直ちにすくい上げるのはたやすいことではないだろう。

◇
昨年は大学卒業予定者が1,076万人に達し、初めて1千万人を越したと話題になった。2023年7月の卒業予定者はさらに82万人増え、1,158万人だという。2022年4月の調査では、中国で“単位”と呼ばれる企業、団体、政府などに就職する“単位就業”が50.4%、“自由就業”(自由業・フリーランス)が18.6%と続き、後述する“慢就業”が15.9%となっている。フリーランスの新たな業態としては、インターネット上のゲームや動画の編集、声優、

ゲーム原作執筆など。また動画ブログを発信して広告収入を得ることも若者の間で人気がある。国内大学院進学9.3%、起業1.9%、海外留学1.3%となっているが、海外留学が思いのほか少ないのはコロナ禍のためだろうか。

◇
さて、この“慢就業”という言葉は7～8年前から使われているらしい。大学を卒業してすぐに職に就くのではなく、“慢”=急がず、ゆっくり、“就業”=就職するというものだ。2017年には有力紙「北京青年報」でアンケート調査が行われており、当時すでに「周囲に“慢就業”の大学生がいる」の回答が72.9%にのぼっている。“慢就業”を選択した学生の多くは、就職までの時間を使って教育支援ボランティア、遊学、インターンなどをする。

大学卒業予定者が増えて、就職競争が激化する中、もし希望の職がすぐに見つからなければ、様子を見ながら時間をかけて理想の就職先を探していく。もともと中国ではより上を目指して転職することは悪いことではないが、最近の大学生は以前に比べて、高い給与や地位よりも安定性を求める傾向が強いという。転職を繰り返すのでなく、

初めから安定した職に就くために“慢就業”の割合も高くなっているようだ。もちろんその背景には、家庭内で一人っ子がほとんどとなり、子供への支援をいとわない裕福な親の存在も大きい。またコロナ禍で「内向き」にならざるを得なかった学生時代を見つめ直し、改めて視野を広げたいと望む若者もいるだろう。一時話題となった“躺平”(寝そべり)*ではなく、“慢就業”が様々な体験を通して見識や人脈を広げ、人生について考える貴重な機会となることを願う。

*注) 躺平(寝そべり): 社会の中で過酷な競争にさらされることを嫌い、経済面や社会的地位に対する野心をもち、精神的安寧をより重視すること。共産党政権を批判するものではないが、政権側は社会の発展を妨げる、と問題視している。

(アジア感染症研究拠点『北京駐在スタッフの随想』2023.1.30より抜粋)

令和5年3月17日発行
一般社団法人 国際フレンドシップ協会
〒106-0041 東京都港区麻布台3-4-12
麻布台ロイヤルプラザ703
発行責任者: 及川 伊佐子
編集: 事務局 03(3582)3021
印刷: ダイト印刷株式会社



第12回、訪日研修待機状況

～スウェーデン高校生、その3～

2020年4月来日予定だったスウェーデン王国・ストックホルム所在のトンバ高校「第12回訪日研修」(IFA運営)は、コロナ禍により実施を延期しており、日本語担当の松井久子先生がオンラインスピーチ発表会を企画した。

2月9日、12時15分～13時20分(日本時間20:15～21:20)の通常授業3時間目に、ストックホルム日本人会会長の三瓶恵子さん、セーデルトーン大学の松本英久さん、IFAから3名が聴衆となり発表会が始まった。

生徒は14名で、今年度の在スウェーデン日本国大使館主催スピーチコンテストのテーマから題材を選び、Webサイトなどで調べて原稿を作成。授業でリハーサルを1度行い本番となった。以下、発表タイトルと概要を紹介する。

1. 日本で行きたいところ アンナ

金沢に行って古い町並みを見たい。兼六園、温泉にも行きたい。歌舞伎、茶道、スイーツめぐり、ポケモンセン

ターやゲームセンターも経験してみたい。日本の歴史文化をもっと知りたい。

2. 日本の料理 アルマ

日本には、目で楽しむ食文化があり、キャラ弁はすごいと思う。寿司、餅、おにぎりのバリエーションも多い。

3. 葛飾北斎の浮世絵 フェリーシア

富士山と波のコントラストが好き。アートを専門にしない私のような普通の人にもインスピレーションを与える。

4. スウェーデンのおすすめの場所 フリーダ

夏は群島や釣りが楽しめるトローサ、冬のアイスホテルでは、犬ぞりなどのアクティビティができるのでおすすめ。

5. 擬態語と擬音語 ヘイディ

オノマトペは、日本の漫画、アニメにも使われている。英語よりたくさん種類があり、ケロケロ、チュウなど、オノマトペがわかるとより楽しくなる。

6. ジブリ美術館 ユリア

宮崎駿監督の作品は面白く、映画は魔法のよう。ジブリ美術館は心が優しくなる場所だと思う。行ってみたい。

7. 日本で行きたいところ ラウレン

原爆の追悼の意をこめて広島、季節ごとの美しさのある日光、そして首都である東京にはぜひ行きたい。

8. 日本で行ってみたいところ リジィ

新宿、秋葉原でショッピング、京都

の神社や寺院。北海道で魚介類、特に食べたことのないウニを食べたい。雪に囲まれた温泉も体験してみたい。

9. 日本とスウェーデンの交通機関 ローガン

日本の公共交通機関は静かで、電話を控えるなどマナーがよい。電車が遅れた場合のアナウンスや遅延証明が発行されるのは、文化の違いだと思う。

10. スウェーデン人と日本人・ステレオタイプ マティルダ

静かで礼儀正しいというステレオタイプは、スウェーデン人と日本人とで似ている。

11. 日本の学校のドレスコード レベッカ

制服のメリットとデメリットを考察。私は好きな服を着て行く方がいい。スウェーデンには制服は必要ないと思う。

12. 日本のポップミュージック ソフィア

日本で人気のポピュラー音楽は他国とは異なる。世界で人気の音楽が日本では人気がないこともあり、興味深い。

13. ジブリ美術館 スサンナ

ジブリ作品は、安らぎを与えてくれる。美術館では様々な企画展示をしているのでぜひ見てみたい。

14. 日本語で好きな言葉 アマンダ

口が寂しいという言い方は面白い。「いきがい」や「森林浴」という言葉はスウェーデンでも知られている。

世界万華鏡

国際交流・コーディネーター 小山^{おやま} 麻由実^{まゆみ} シリーズ12 ブルガリア共和国(その2)

前号のボヤナ教会に続いて、ブルガリアの感動的な世界遺産を紹介します。

●リラの修道院

首都、ソフィアからバスで2時間位の場所にあります。路面電車・トラムに乗って、少し郊外のバスターミナルへ向かいます。バスは1日2本しかありません。誰もいなかったのに、出発時間が近づくと、ぞくぞくと観光客が集まってきました。しばらくバスに乗ると、謎の場所で長めの休憩を30分です。とりあえず降りてみました。7月のブルガリアは暑く、周りは人気もなく何もなし。なぜ待ったのかは分からずに、またバスに乗り出発しました。しばらく山道を進んで行くと、突如、駐車場が現れます。そして入口をくぐると、「わぁお、すごい」と思わず声が出ました。何かの物語の一場面に潜り込んでしまったかのような錯覚に陥ります。感動です。総面積は東京ドームの2倍。さっそく中心の19世紀半ばに建てられたという教会に近づいてみます。教会を囲む回廊の壁面、その天井すべてフレスコ画で埋め尽くされています。教会内に入っても金ピカです。撮影禁止のため、外側を写真撮影。



教会の隣には時計台がありました。修道院の中では一番古い、14世紀に建てられたフレリョの塔。セルビアの貴族フレリョ・ドロゴボラさんの寄進により建造され、とても趣きがあります。横にはライオン絵がありました。教会と塔を囲う全体が修道院の住居部分となっています。絶景です。旅行者は実際に泊まることもできます。

帰りのバスは1本しかないけれど、丁度、お昼を食べたらいい時間かな、と修道院の裏門を出てみると、レストランがありました。リラ川が流れていて、川沿いのテラス席は気持ちがいいです。名産の「フレッシュな鱒」、と看板に書いてあったので、迷わず注文しました。ただ、なかなか出てきません。周りのお客さんもかなり待っているようです。大丈夫かな、間にあうかな、まだかなと、食べる時間が30分、

20分、だんだん減ってきます。そしてあと15分をきったところで運ばれてきました。外はカリッと、中はふわっと、香りも食感も良く調理されています。ただし、ここは裏門でバスは表門から出発します。正味5分ちょっとで味わいましたが、絶品でした。無事に出発ギリギリにバスにも乗れました。

そしてまた例の謎の場所でバスが止まりました。次の瞬間、全員これに乗るようにと、小さなバスに乗り換えです。そもそも全員が乗れるのかと思うほどです。結果、満席ぎゅうぎゅうの狭い席でソフィアへと帰りました。快適さを考えると行きと帰りは同じお金の価値はないとも思ったのですが、合理的と言ったらいいか、自由経営のブルガリアのバス会社なのでしょう。

ボヤナ教会とリラの修道院、どちらも素敵な世界遺産で、ソフィアから日帰りで行けるブルガリアの名所です。

令和4年3月17日発行
一般社団法人 国際フレンドシップ協会
〒106-0041 東京都港区麻布台3-4-12
麻布台ロイヤルプラザ703
発行責任者: 及川 伊佐子
編集: 事務局 03(3582)3021
印刷: ダイト印刷株式会社



第12回、訪日研修

～スウェーデン高校生より～

スウェーデン王国、ストックホルムにあるトンバ高校の訪日研修は、今年で12回目、2020年4月5日から19日までの15日間、日本語を学ぶ高校2年生11名が参加。ホームステイをしながら日本の高校に体験入学する生徒からの挨拶文をここに抜粋し紹介する。

Shania AMRANI (女子)

私の専攻は人文学です。スウェーデン語、英語、フランス語、日本語とラテン語を勉強しています。スワヒリ語も話します。タンザニアで生まれましたが、7歳から家族とスウェーデンに住んでいます。家族は6人で父はレストランで働き、母は看護師です。上の姉、兄と下の姉は双子です。

私は読書が好きでよく本を読みます。好きな小説は、恋愛小説とファンタジーです。8月から毎週3回、空手の練習を始めました。日本でたくさんのがしたいです。買い物をしたいです。日本の食べ物を食べたいです。日本語

をたくさん話して勉強したいです。

Carl CANTERUS (男子)

僕はカントルス・カールです。カールと呼んで下さい。僕は、湖のそばに住んでいるので、船に乗ったり、泳いだり、そして冬の間はアイススケートをしたりします。サクスを吹いています。音楽は大好きなので、CDとレコードもいっぱい集めています。日本の歌手も好きで、特に、椎名林檎と米津玄師が気に入っています。うどんが僕が一番好きな日本料理です。東京の生活は短いけれど、とても楽しみにしています。



日本語クラスの生徒たち

Alma FALKENSTAD (女子)

私は家族とトンバに住んでいます。トンバはストックホルムの南にあります。とても静かで小さな町です。

私の趣味はダンスや歌を歌うことです。毎週水曜日にコーラスで歌います。ピアノとギターも弾きます。本を読むのも好きで、好きな作家はゴーランレディンとダレン・シャンです。

子供のころ、よく、スタジオジブリ

の作品を見ました。私はスタジオジブリとアニメが好きです。

日本に行くのが楽しみです。日本でたくさん日本語を習いたいです。そして友達をたくさん作りたいです。

Jonathan KEKKONEN (男子)

私はスウェーデンのトンバ高校の2年生です。専攻は人文学です。トンバ高校は大きい高校で、1,400人ぐらい生徒がいます。私の家族は4人です。母の仕事は看護師です。母はタイ人ですから、タイのテレビが好きです。父は会社員です。父はサッカーが好きですが、サッカーはしません。姉は大学で勉強しています。

私は日本語が大好きです。日本の歴史を学びたいです。東京でプラモデルファクトリーに行きたいです。

Isabella SALINAS (女子)

私はスウェーデン語、スペイン語、英語と日本語を勉強しています。日本語は難しいですが、とても楽しいです。

私の趣味はフィギアスケートです。毎週水曜日と日曜日には、フィギアスケートのコーチをしています。金曜日には家族と映画を見ます。そして金曜日には大抵チョココレートを買います。週末にはよく家で勉強をします。時々ゲームもします。

私は日本の文化に関心があります。日本でたくさん日本語を習いたいです。そして友達をたくさん作りたいです。

(本人手記の抜粋)

世界万華鏡

国際交流・コーディネーター

おやま まゆみ
小山 麻由実

シリーズ6 北マケドニア共和国

2015年3月31日から約3年間、夫と二人で世界約100ヶ国を巡る新婚旅行をしました。今回ご紹介するのは、知られざる親日の国、マケドニアです。

銅像に囲まれた首都、スコピエ

マケドニアは旧ユーゴスラビアが「7つの国境、6つの共和国、5つの民族、4つの言語、3つの宗教、2つの文字を持つ、1つの国家」と言われたときの共和国の一つ。1991年に独立し、19年2月に憲法上の国名を「北マケドニア共和国」に変更しています。九州の約3分の2の面積で、人口は約208万人。穏やかな国という印象でした。

首都、スコピエの第一印象は銅像が多いこと。街を流れるヴォルダル川に架かる橋の両側には幾つもの人物像が並び、町の中心マケドニア広場には大小の馬に乗っている銅像、国旗を掲げる銅像があり、中央の噴水にも銅像やマーライオンみたいな像もありました。しかも夜になるとそれらがライトアップ。歩道にはニューヨークで見た牛の像、フランスの凱旋門みたいな建物もあります。建物の屋上やバルコニーなどあらゆる所に像が。真偽は不明ですが、地元の方曰く、「観光客誘致

のために政府がやっている」とのこと。なかなか圧巻の光景でした。



親日国となった理由

スコピエの町を歩いていると、私たちに身振り手振りで何かを訴え、記念撮影を求められたことが何度かありました。東洋人が珍しいからかと思いましたが、理由を宿のおじさんが教えてくれました。それは建築家の故丹下健三氏のお陰でした。首都のスコピエは1963年の震災で市内の大部分が破壊され、その後の都市計画を策定し政府とともに街を造ったのが同氏。「ケンゾー・タンゲについては学校で習った。私は62歳だが同世代で彼を知らない者はいない。駅もショッピングモールや住宅も、あれもこれも」と。駅を見に行くとして珍らしい高架駅でした。

この街には有名人がもう一人います。スコピエで生まれ育ったマケドニア人、マザー・テレサです。アイルランド系

修道院に入り、カルカットへ赴く18歳までこの街で過ごしました。マケドニア広場近くに記念館があり、もちろんここにも銅像や石像もありました。

郊外はちょっとした避暑地

スコピエからバスで20分位行くと山の中にある景色の良いMatka溪谷があります。きれいな川、かっこいい岩山の間をトレッキングして湖を目指します。街中は40℃にもなる8月、ここはとても涼しく地元っ子も避暑に来て泳いでいます。少し行くとダムがあり、素敵な門をくぐると土産物屋や教会もありました。こんな崖の麓に良く作ったものです。

湖ではカヌーやジェットボートをレンタルし鍾乳洞がある洞窟に行くこともできます。川沿いのお花が綺麗な素敵なレストランで見る景色は絶景。ボサノバが流れていて、おしゃれなヨーロッパの雰囲気を楽しめました。

令和2年1月17日発行
一般社団法人 国際フレンドシップ協会
〒106-0041 東京都港区麻布台3-4-12
麻布台ロイヤルプラザ703
発行責任者：及川 伊佐子
編集：事務局 03(3582)3021
印刷：ダイト印刷株式会社



第11回、訪日研修

～スウェーデン高校生より～

スウェーデン王国、ストックホルムにあるトンバ高校の訪日研修は、今年で11回目、4月7日から22日までの16日間、日本語を学ぶ高校2年生5名が参加。ホームステイをしながら日本の高校に体験入学する生徒の自己紹介文をここに抜粋し紹介する。

Johan Hagstroem ヨハン (男子)

私の家族は父と母と妹です。父はジャーナリストで、母は司書です。妹は14歳で中学生です。私は家族とフルエンゲンに住んでいます。フルエンゲンはストックホルムの南の郊外にあります。家族のアパートは公園の隣です。

私の趣味は演劇です。毎週演劇の練習をします。私は本を読むことが好きです。J・R・R・トールキンは私の一番好きな作家です。私は絵を描くことも好きです。

私はスタジオジブリの映画に関心があります。日本で三鷹の森ジブリ美術館に行きたいです。ホストファミリー

の皆さんに会うのが楽しみです。

Nora Nashat ノラ (女子)

私は英語とノルウェー語とロシア語が得意です。日本語は難しいですが、大好きです。

家族は父と母と私の犬。父は主夫で母はホームケアの職員です。私たちの犬の名前はシャキラで11歳です。

私の趣味はダンスです。毎週月曜日と木曜日にダンスの練習をします。とても楽しいです。私はゲームをするのが好きです。好きなゲームはポケモンです。私は日本の食べ物とアニメに関心があります。日本に行くのが楽しみです。たくさんの写真を撮りたいです。



日本語クラスの生徒たち

Stina Hedberg スティーナ (女子)

家族は父と母と兄です。父は科学者で、母も科学者です。兄は大学でコンピュータの勉強をしています。

私の趣味はダンスと乗馬と走ることです。私は映画が好きでハリポットの映画が一番大好きです。週末によく友達と映画を見ます。私は日本の食べ物に関心があります。私は合羽橋とス

タジオジブリへ行きたいです。日本に行くのが楽しみです。日本でたくさん日本語を習いたいです。

Nathalie Kurt ナタリー (女子)

私は英語とドイツ語が得意です。日本語は好きですから、難しくありません。家族は、父と母と弟と妹です。父はエンジニアで、母は会社員です。弟は高校で技術の勉強をしています。妹は小学生です。私は家族とブレードングに住んでいます。ブレードングはストックホルムの南にあります。とてもにぎやかな町です。

私は映画が好きで、好きな映画はマーベルの映画とハリポッターです。週末ときどき友達と映画を見ます。日本で友達をたくさん作りたいです。

Jona Liljemark ヨナ (女子)

学校で人文学を勉強しています。英語とドイツ語とラテン語と中国語と日本語を勉強しています。日本語が一番好きです。ちょっとむずかしいですが、とてもおもしろいです。

家族は父と母と妹です。父は教会の仕事をしています。母は心理カウンセラーです。

趣味で音楽を聴きます。J-popとK-popが大好きです。日本のアニメも大好きです。私の好きなアニメは進撃の巨人とラブライブです。

日本に行くのが本当に楽しみです。日本でたくさん日本語を話したいです。
(本人手記の抜粋)

世界万華鏡

国際交流・コーディネーター

おやま まゆみ
小山 麻由実

シリーズ4 スヴァールバル諸島

2015年3月31日から3年間弱、夫と二人で世界一周新婚旅行をしました。ちょうど100カ国を訪問しましたが、今回は世界最北の地、ノルウェーのスヴァールバル諸島をご紹介します。



世界最北の町へ

唯一の有人の島、スピッツベルゲン島にあるロンゲイェールビーンは、1000人以上の人口を有する町で、世界最北に位置します。スヴァールバルはノルウェー領ですが、シェンゲン協定(欧州国家間で国境検査なしで越えることを許可する協定)の対象地域外で、ノルウェーの首都、オスロからは国内の移動なのに国際線に搭乗します。9月初旬で肌寒く、出国手続きでは大型犬やソリなどが目立ちました。

飛行時間は約3時間、スカンジナビア半島を北上して北極海に出ます。到着し、外に出ると思いのほか寒いのですが、さて、どうやって宿まで移動するのだろうか。前情報は一切なし。周りを見るとタクシーを発見。でも高そうなので路線バスを探すとありました。1人75クローネ(当時約1,130円)。実際は空港と宿を結ぶバスで、宿の名前を聞かれて通る場所なら乗車可。我々

の宿、コールマイナーズキャビンは元々は炭鉱夫の宿泊施設で、この島では比較的安い宿でした。そのため町の中心からは遠く、バスの終点でした。

最北の町ってどんなところ

早速、最北の町をブラブラしてみます。澄み切った静かな空気の中、背丈の低い草花が広がります。カラフルな住宅、郵便局、教会、電気自動車用の充電器も。そして立派な学校の屋根一面にはソーラーパネル。ちょうど帰宅時間のようで自転車通学の元気な子供たちが颯爽と走り去りました。登下校は犬の散歩も兼ねているようです。

北緯80度近いため、白夜(1日中太陽が出る日)と極夜(1日中太陽が出ない日)が4ヵ月ずつ。つまり年間の3分の1ずつが昼と夜、残りがいわゆる普通の日、我々の滞在時期です。

町にはスーパーマーケットが1軒のみ。価格競争はなく物価高です。品揃えは豊富で、電化製品からバイク、ゲームや書籍も充実。食料品も冷凍食品、酒ほか、パンなども売っています。近くには世界最北の寿司屋さん、「sushiKITA」があり、なんと日本人の握る本物の寿司も堪能できました。



シロクマツアー

船でシロクマを探すツアーに参加しました。船長は双眼鏡と他の船からの無線を駆使して、あっちへこっちへと船を移動します。フィヨルドをぬけて氷河地帯へと到着。エンジンを切ると何の音もしない静寂な場所。自然の偉大さ、正にその場に行かないと味わえない醍醐味です。ランチは熱いスープとパン、これがうまい。至福の時です。鳥の鳴き声がたまに聞こえます。そしてついに待望のシロクマが岩の上に顔を出したのです。船長も大興奮。帰路、海上に変な鳥が浮かんでいました。アイランドで有名なパフィンでした。

平成31年1月17日発行
一般社団法人 国際フレンドシップ協会
〒106-0041 東京都港区麻布台3-4-12
麻布台ロイヤルプラザ703
発行責任者: 及川 伊佐子
編集: 事務局 03(3582)3021
印刷: ダイト印刷刷



第10回、訪日研修

～スウェーデン高校生より～

スウェーデン王国、ストックホルムにあるトンバ高校の訪日研修は、今年で10回目、6月4日から18日までの15日間、日本語を学ぶ高校2年生13名が参加。ホームステイをしながら日本の高校に体験入学する生徒の自己紹介文をここに抜粋し紹介する。

エーリン・ホルムベリ (女子)

私の名前はエーリンですが、ジェイミーと呼ばれています。スウェーデントンバ高校の2年生で、人文学の勉強をしています。父は電気技術者、母は看護師、妹は中学生です。家族4人でフッディングに住んでいます。フッディングはストックホルムの南にあり、にぎやかな街です。私の趣味は詩や小説を書くことです。特にファンタジーストーリーを書くのが好きです。映画を観ることも好きで、SFとコメディが特に好きです。

私はかけことばが好きです。たとえ

ば、“アルミかんの上にあるみかん”とか、“スキーがすき”などです。

エリサ・ラヴァリエラ (女子)

私はキューバ人とロシア人のダブル(国際結婚で生まれた子)です。ラトビアの首都、リガで生まれ、スウェーデンのストックホルムで育ちました。趣味はダンスです。毎週火曜日と木曜日に友だちとダンスの練習をします。音楽も好きで、よく歌を歌います。スタジオジブリ HAYAO MIYAZAKIの映画が好きです。きれいで面白いからです。

イロナ・ガプロ (女子)

私は学校が好きです。ドイツ語、英語、スウェーデン語、アラビア語を話すことができます。日本語は難しいですが大好きです。趣味は絵を描くことと料理です。毎週、月曜日と金曜日はボクシングに行き、木曜日はダンスをして、金曜日はよく家族5人で映画を観ます。日本の料理の作り方を学びたいです。日本に行くのが楽しみです。

マーリン・サンドベリ (女子)

私の趣味はビデオゲームと映画とテレビシリーズを観ることです。本とまんがを読むのが好きです。週末によく映画を観ます。

日本のアニメに関心があり、日本に行くのが楽しみです。日本でたくさん日本語を習いたいです。そして友だちをたくさんつくりたいです。

マルクス・サリン (男子)

私の家族は父と母と中学生の妹です。ストックホルムの南、イヤーナに住んでいます。とても小さな街です。趣味はトレーニングです。連続テレビ番組を見るのも好きです。好きなテレビ番組は「rwby」と「フラッシュ」です。週末にはよく友だちとゲームをします。私の部屋は台所と居間の間にあります。部屋はきれいで、ベッドが一つと机があり、机の上にテレビがあります。クローゼットやソファもあります。ホストファミリーの皆さんに会うのが楽しみです。

サンドラ・シデン (女子)

学校で人文学の勉強をしています。スウェーデン語と英語と少しフィンランド語とドイツ語と日本語も話しています。

私の家族は4人で、父と母と兄です。うちにペットが2匹います。緑の鳥と大きい犬です。

毎週学校で勉強しています。そして学校のダンスクルー(チーム)でダンスをしています。ポールダンスとジャマイカのダンスハルが大好きです。週末によく友だちとストックホルムのショッピングセンターへ行きます。

私は日本のアニメが好きです。「進撃の巨人」が大好きです。日本のお菓子は本当においしいです。日本に行くのが楽しみです。

(本人手記の抜粋)

世界万華鏡

スウェーデン高校生の見た日本 ヨハンナ・フロムホルツ “スウェーデンにおける日本”

スウェーデン人に「日本についてどう思いますか」と聞いたら、たいていの人には「人が多い」とか「桜があちらこちらにある」、そして「毎日お寿司を食べる」などと答えるでしょう。最近ますます若い人たちは日本のポップ・カルチャーに興味があります。日本のアニメはすごく人気ですが、私が日本に興味をもったきっかけはファッションです。子どものときから着物に興味がありました。異なるスタイルとか、模様の意味とかにです。中でも振袖はとても美しいと思います。

日本はアニメやお寿司やユニークなファッションだけではなくありません。日本についてもっと勉強したくて、高校で日本語のクラスに入りました。そして、日本の伝統文化や日本人の日常生活について学び、去年の4月に日本に2週間研修旅行に行きました。

「ウー-いい国だなあ」、「天国みたいだなあ」と思いました。どこへ行っても全部がきれいだし、全てがよくオーガナイズされていて、電車は時間どおり来ます。日本に行った最初の印象は、やはり人が多いことでしたが、人々がルールを守って、能率よく機能していることに驚きました。たとえば、信号が赤のとき、日本人は横断歩道を渡ら

ないで待ちます。しかし、スウェーデン人は待ちません。信号が赤でも、車が来なかったら渡ります。日本の道や公園はとてもきれいで、ゴミが見あたりませんでした。ゴミ箱がどこにもなく、ごみを出さないのに驚きました。

私は日本人の親切も体験しました。あるとき、駅で違う出口に出て、駅を通って戻らなければ行けませんでした。駅員さんに英語で道順を聞いても、英語があまり話せませんでした。一生懸命手伝ってくれて、感動しました。

また、レストランなどでかばんを置いて、席を離れることなど、スウェーデンでは考えられないことですが、日本はとても安全な国だとわかりました。

日本への研修旅行の前に日本について動画をよく見ました。そのためかカルチャーショックをあまり経験しませんでした。日本とスウェーデンは、よく似た習慣をもっていると思います。例をあげると、家に入って、靴をぬぐこと、電車で大声で話したりしないこと、そして日本人とスウェーデン人は一般に内気でシャイな人が多いことなどです。でも、知り合ったら面白くて、親切なところも似ています。

一方、スウェーデンと日本の違いにも気づきました。学校では男女が別々



向かって左から二番目がヨハンナ

に体育の授業を受けていましたし、家では伝統的な男女の役割がありました。自分で実際に日本の生活や文化を体験することで、より良く日本について知ることができました。今、私は高校の卒業研究で、日本のモードの歴史について調べています。江戸時代から現代までの服装とジェンダー(性別)についてです。これからも日本語の勉強を続けて、もっと日本について理解を深めたいと思います。(一部省略)

2018年2月10日(土)に実施された、在スウェーデン日本国大使館主催「日本語弁論大会」でのスピーチ。昨年、IFA実施の「訪日研修」に参加した生徒。

平成30年2月17日発行
一般社団法人 国際フレンドシップ協会
〒106-0041 東京都港区麻布台3-4-12
麻布台ロイヤルプラザ703
発行責任者: 及川 伊佐子
編集: 事務局 03(3582)3021
印刷: 音和堂印刷株式会社



第9回、訪日研修

～スウェーデン高校生の期待～

スウェーデン王国、ストックホルムにあるトンバ高校では、毎年、日本語を学ぶ生徒対象に訪日研修を実施している。IFAでは初年より同日本研修を企画実施運営しており、今年で9年目となる。4月9日から23日までの15日間、高校2年生5名がホームステイをしながら東京と神奈川の高校で体験入学をする。ここにホストファミリーへのメッセージを抜粋し紹介する。

Lovisa ロヴィーサ (女子)

私は学校で人文学の勉強をしています。英語とフランス語が得意です。日本語はちょっと難しいですが、とても楽しいです。

私は料理を作ることが好きです。ときどき晩ご飯を作ります。趣味はビデオゲームとアニメです。宿題のあとでときどきゲームをします。ポケモンとゼルダの伝説が好きです。

日本に行くのが楽しみです。日本語をたくさん習いたいです。

Yohanna ヨハンナ (女子)

私はトンバ高校の2年生です。英語とラテン語が得意です。ドイツ語も勉強しています。

趣味はダンスや航空です。週に1～2回K-POPダンスをします。疲れますが、楽しいです。写真を撮るのも好きです。好きな写真は空と夕焼けの写真です。美しいと思います。航空と飛行機はとても面白いと思います。将来、航空機エンジニアになりたいと思っています。



生徒たちからのカード・サイン

Lowa ロワ (女子)

私の家族は母、父、妹です。たくさん動物を飼っています。私たちはソルンダという町に住んでいます。ソルンダはストックホルムの南西にあります。スウェーデンで有名なソルンダ教会が

あり、静かできれいな自然もあります。趣味はピラティス(身体のトレーニング)や乗馬のような運動をすることです。アニメを見ることと音楽を聞くことも好きです。

ホストファミリーに会うことが楽しみです。

Sandra サンドラ (女子)

私は学校で人文学の勉強をしています。英語が得意です。日本語は難しいですが、大好きです。

私の趣味はアニメと漫画です。アニメは様々なタイプが好きです。好きなアニメは「進撃の巨人」です。将来は旅行ガイドになりたいです。週末によく友達と映画を見ます。

私は日本の文化に関心があります。日本に行くのがとても楽しみです。

Emilie エミリー (女子)

私の家族は父と母と兄と弟です。私たちはフッディングに住んでいます。ストックホルムの南にあり、とても静かな町です。

私の趣味は体操をすることです。映画を見ることも好きです。将来の夢はジャーナリストです。

日本に行くのが楽しみです。たくさん日本語を習いたいです。「テーマ・カフェ」(編集注:動物やアニメ、勉強といったテーマ別のカフェ)も訪問したいです。

(本人手記の抜粋)

世界万華鏡

スウェーデン高校生の見た日本 第8回トンバ高校訪日研修参加者 エリク・アンドレアソン

私や私の友だち、家族は、日本人というと、礼儀正しく、感情を表に出さない、楽しめないというイメージがありました。しかし、私は、昨年、日本の栃木県に1ヵ月間の交換留学をして、それが間違っていることに気づきました。仕事ではカジュアルな服そうや男の人の長い髪やひげは、普通はダメです。高校で生徒たちは制服を着て、授業の始まりと終わりには「れい」をします。学校でも先生や先輩には敬語を使って敬意を示します。会社ではワイシャツにジャケット、またはユニフォームを着て、仕事や仲間に対する敬意があります。一方、スウェーデンでは服そうも髪型も自由です。仕事や学校、言語においても、フォーマルとカジュアルの差がありません。

しかし、日本人も家に帰ると、とてもリラックスして、カジュアルに暮らしています。仲のよい友だち同士の会話は全く違ったスタイルになります。

日本人に関わるステレオタイプの中に真実もあります。例えば、日本人にとって時間を守るのはとても大切なことです。毎日学校は8時半に始まりましたが、8時には学校に着いていました。スウェーデンでは、30分遅く着

く人もたくさんいます。たいていは、電車やバスのせいですが、日本では電車やバスが時間通りに来るのが素晴らしいです。スウェーデンでは時間通りに来たら「すごい」と思いますが、日本では数分遅れただけでも、運転手がお客さんに謝っています。日本人はおそらく人に迷惑をかけたくないという気持ち強いと思います。

しかし、よいことばかりではありません。日本に行ったときに、私は「過労死」の問題について知りました。仕事をし過ぎて、それが原因で死んでしまうことです。私のホストファミリーも朝2時に家に帰ってきたことがあります。日本の労働条件はとても厳しいと思います。スウェーデンには「過労死」という言葉はありません。ストレスや過労から病気になるスウェーデン人は、以前より多くなっていますが、国は週当たりの労働時間を減らす新しい法律を作りました。

病気のときは、給料が保障され、仕事を休んで治療します。残業をする人は日本のように多くありません。仮に上司がまだ仕事をしていても、家に帰れます。スウェーデン人は会社や仕事よりも個人やプライベートの方が大切

だと考える人が多く、それは仕事とプライベートのバランスが、仕事の効率や生活のクオリティーのためにも大切だと考えるからです。

日本で、日本人は私にとっても親切にしてくれましたが、外国人に少し偏見があると気づきました。皆が私が日本語ができないと思っていましたし、私が何か変なことをしたり、何かできなかったり、何かを好きだったら「外人さんだから」と思っているようでした。日本はあまり移民を受け入れていませんから、外国人が特別な存在なのかもしれません。スウェーデンでは人は皆違うと思っていますから、外国人だからといって、特別ではありません。

スウェーデンと日本の違いから、お互いに学べることが多いと思いました。

(2017年1月28日実施、「第3回スウェーデン学生日本語弁論大会」高校生部門第2位)

平成29年2月17日発行
一般社団法人 国際フレンドシップ協会
〒106-0041 東京都港区麻布台3-4-12
麻布台ロイヤルプラザ703
発行責任者: 及川 伊佐子
編集: 事務局 03(3582)3021
印刷: 音和堂印刷株式会社



第8回、日本研修

～スウェーデン高校生の来日～

スウェーデン・トンバ高校の14名の高校生が6月5日来日し、1週間の日本事情オリエンテーションを終えてホームステイに入った。1人一家庭、高校生の家庭に滞在しながら高校体験入学を1週間行う。ここに生徒を受け入れたホストファミリー（母）からの初日から学校登校の様子を紹介する。（関連記事、本紙2月号、3月号）



渋谷教育学園渋谷高等学校2年
池光麻尋、薫（母）

エリック・ラウレンスさんをお預かりしています。ご心配されているかと思ひ、初日からの様子をお伝えします。

6月11日（土）

対面式ではこちらがドキドキしてしまうくらいナーバスな彼。帰路の車内でも会話は弾まず、この先どうなることやら、と心配したものの帰宅後は、夕食の買い出しの手伝いをしてくれて

「日本の料理を食べたい」と積極的な一面も見せてくれました。

夕食はてんぷらでしたが、息子と娘が食べている「お茶漬け」にも挑戦、おいしいと言っていました。お風呂に入ってぐっすり眠れたようです。多分。

6月12日（日）

朝からリクエストの和定食を気に入って食べて、「立川 IKEA に行った日に買ったかったのに買いそびれたものがあるので立川に行きたい」（comics でした）と。また、「縄文土器を見たい」と言うので、立川と上野に麻尋と行きました。帰りに上野で「あんみつ」を食べて、ずいぶん気に入ったみたいです。「初めて見るハイテンションだった」と麻尋談。

帰宅後は疲れているのに、リビングで一所懸命に話をしてくれました。夕飯の「餃子」を包むお手伝いもしてくれて楽しいひと時でした。



「おいしい」は「gott」と教えてくれて「日本語の関西の方言で『ごっつ』は『とても』だから、『ごっつごっつ』は『very yummy!』だね」とみん

なで大笑い。娘も今日、小学校でSwedishを披露すると言ってエリックにスペルを書いてもらっていました。お風呂に入り、登校に備え早寝。

6月13日（月）

今朝は忙しい日本の朝に不慣れなようで、張り切っていたのに剣道着を忘れていきました…。

お弁当はごはんがいいというので、「The 日本のお弁当」を持たせました。朝からとても緊張していた様子。浩浩は帰国生が多いので英語ばかり話してしまうかもしれません。家では不自由でもいっぱい日本語を使いたいと思います。いろいろな単語をたくさんメモして偉いです。

6月14日（火）

学校が楽しかったようです。下校後、みんなで宿題を済ませ、食後は、娘のミオのためにたくさんのSwedishを教えてくださいました。Jordgubbe（苺）の語源が「Ground + oldman」だというので、なぜと爆笑でした。私たちも教えてもらったSwedishで挨拶しています。ミオが覚えて話すたびにエリックが「とってもじょうず」とほめてくれるので彼女も嬉しいようです。

夕食後、鯛焼きを食べて「タイ」は「めでたい」と話したり、ミオが小学校で借りてきた本を使ってエリックからスウェーデンについての話を聞いたり。たくさんのことを学び、私たちも楽しい時間を過ごしています。

世界万華鏡

“太平洋島サミットを通して考察する沖縄問題” その2 エッセイスト 五月女光弘

ウチナンチュウの人々で完全独立を求める人は多くはない。それは国際情勢（とりわけ東アジアにおける安全保障問題など）と地域経済・通商問題などが主たる理由である。しかし自由連合としての地位を求める人、期待する人はかなり多い。450年以上続いた琉球王国は1872年（明治5年）に日本帝国政府により琉球藩となり、1875年に帝国政府派遣の松田道之処分官により、①年号を清国年号から明治年号に変えること。②清国からの冊封を受けぬこと。③国王（藩主）尚泰を上京せしめること、の3条件を受諾させ、1879年（明治12年）琉球藩を沖縄県として正式に帝国の一部に組み込み、ここに琉球王国は完全に滅亡したのである。（注：冊封サクホウとは、清国皇帝が冊（任命書）及び金印により、王や侯に封する（爵位を与える）こと）

言語は琉球処分（1870年代）以前は、大和語とは大きな違いのある琉球語が主体であった。しかし同化政策により、「沖縄対話」（日本語と琉球語の間の対訳辞典、和英・英和辞典的なもの）を作り日本語化を推進し、琉球語を消滅させる政策を実施。昭和時代か

らはテレビ等の普及も進み、現在は沖縄本島の人々の多くは日本標準語を話す。本島南部や周辺の島嶼圏では依然として（勿論日本語は話すものの）琉球語も使われている。＜中略＞

●ヤマトンチュウとウチナンチュウの相互理解は進むのか

ウチナンチュウの人々は数百年に亘り大切に守ってきた自分達の伝統と文化をヤマトンチュウに理解し尊重してもらいたいと強く願っている。他の県とは異なる特別の県であると認識してもらいたいのである。英連邦の一員としての豪州、ニュージーランドなどは完全な独立国ではあるが、国家元首は英国女王である。さらにそのニュージーランドの傘下のクック諸島国、ニウエ国も同様に英国女王を元首と位置付けている。それはたとえば、琉球国が日本国の自由連合国家と認められて、天皇陛下を国家元首とする国家となるかのごときであるが、その場合は国の名称はどうなるか。ウチナンチュウは二つの名称を使い分ける。例えば、琉球大学（国立）と沖縄大学（私立）、琉球銀行と沖縄銀行、琉球新報と沖縄タイムス、琉球列島と沖縄諸島など。

二つの名称の内、「琉球」には歴史と伝統を、「沖縄」には日本との絆を感じているようである。ウチナンチュウの多くの人々は、沖縄が日本国から離れて独立国家になってほしいとは思っていないし、日本国の一員として発展してほしいと思っている。

相互に信頼と敬意を持たず、対決姿勢で行われる交渉は決して良い結果は生まれない。繰り返しになるが、ウチナンチュウはヤマトンチュウに琉球・沖縄の独自性と古き歴史・伝統を尊重し、それを踏まえて沖縄に対応し処遇してもらいたいと願っているのである。

平成28年3月23日、一般社団法人霞関会掲載「論壇」より転載。中略あり。五月女光弘（元外務省参与 NGO 担当大使、元駐ザンビア大使、元在オーストラリア総領事）参考文献：本紙「世界万華鏡」平成20年12/17号と平成22年5/17号、他。本紙前号に「その1」掲載。

平成28年6月17日発行
一般社団法人 国際フレンドシップ協会
〒106-0041 東京都港区麻布台3-4-12
麻布台ロイヤルプラザ703
発行責任者：及川 伊佐子
編集：事務局 03(3582)3021
印刷：音和堂印刷株式会社



第8回、日本研修

～スウェーデン高校生の期待～
その2

先月号に続き、スウェーデン・トンバ高校の訪日研修（6月5日から20日まで）に参加する15名の生徒の中からホストファミリーへのメッセージを抜粋し紹介する。

Edessa エデッサ (女子)

私の家族は8人です。大家族です。母、父、そして4人の兄と姉がいます。私は末っ子です。

人文学科の生徒で、勉強は面白いです。小説を書くのが好きです。作家になりたいです。書くことは楽しいです。それ以外にも、工芸品が好きで、携帯のキーホルダーやケースを集めています。また、たまにマンガを読みます。好きなマンガの作家は、さきさかいおと、きしもとまさしです。

Jesper イェスパー (男子)

トンバ高校の2年生です。英語が得

意です。日本語は関心がありますが難しいです。私の趣味はゲームやまんがです。ゲームの中で「Monster Hunter」が好きです。まんがの中では「とらどら」が一番です。週末によく友だちとゲームをします。

日本に行くのが楽しみです。日本でゲーム屋に行きたいです。たくさん日本語を習いたいです。

Sara サラ (女子)

私は学校で英語とスウェーデン語とタイ語を話します。日本語は難しいですが、大好きです。ストックホルムの南のサーレムに住んでいます。静かな町です。

私は本を読むのが好きです。とくにファンタジーとロマンスの本です。週末にときどき友だちに会って勉強をします。私は日本の文化と日本の食べ物に関心があります。

Eric B. エリック バックマン (男子)

英語や数学が得意です。でも日本語は私の一番好きな科目です。

私の趣味はゲームと映画です。よく彼女と映画を見ます。

ホストファミリーに会うのが楽しみです。どうぞよろしくお願いします。

Magdalena マグダレーナ (女子)

私の名前はマグダです。学校の勉強は難しいですが、頑張ります。英語が得意です。日本語は難しいですが、楽しいです。

私は家族とソルナに住んでいます。ソルナはストックホルムの北にあります。ソルナに城があります。皇太子妃がそこに住んでいます。とてもきれいな町です。

私は子どものころから「セーラームーン」が大好きです。

ミュージカルが好きです。そして歌うことが好きです。私はひとりで家にいるとき、よく歌います。

Nice ナイス (女子)

学校で人文学の勉強をします。英語とイタリア語が得意です。日本語は面白いですが、難しいです。

私の趣味は韓国のドラマを見ることとマンガを書くことです。

私は本を読むことが好きです。オンライン小説は面白いです。週末によくゲームをします。私は毎日学校の勉強をします。

Marta マルタ (女子)

私の名前はマルタです。ストックホルムはにぎやかな町ですから、人がたくさんいます。有名な場所は王宮や gammastan です。ストックホルムは、冬は私には寒くないですが、日本人には本当に寒いです（だけど白クマはいません）。

日本に行くのでお寺やきれいな場所を見たいです。ホストファミリーの皆さんに会うのが楽しみです。

(本人手記の抜粋、校正：編集)

世界万華鏡

スウェーデン高校生の見た日本

ウィリアム・テイラー

私はトンバ高校のウィリアム・テイラーです。私は難民問題について話します。

UNHCRによると、2015年にシリアの難民は400万人を越えました。そのうちスウェーデンまで、亡命した人の数は16万人に達しました。スウェーデンには、難民を助けたい人が多くて、称賛を受けています。

FOKUS新聞の「今年の人」に選ばれたのは、ボランティアの人たちです。学校やスポーツクラブ、図書館も難民を助けています。したがって、スウェーデンは、難民を歓迎する国といわれています。

スウェーデンの人口の中で、16パーセントの人は外国で生まれています。スウェーデンは多文化の国で、色々なライフスタイルが可能です。日本人は3000人位います。日本で外国生まれの人は、2パーセント足らずです。日本は、人口が高齢化する中で、移民の労働力も必要ではないでしょうか。

ライターによると、2014年は5000人の難民が日本に来て、難民申請をしました。その中で、11人が難民の認定を受けました。2014年には、世界で2000万人の難民がいて、そのうち日本で11人だけが受入られました。



しかし、今、日本は、働き手が必要です。スウェーデンのテレビ局、SVTは、日本の老人ホームでインタビューをして、日本人とフィリピン人の職員と話しました。看護師長は、移民の受入が必要だと考えていました。しかし、介護をしてもらっている人の娘さんは、難民の受入に懐疑的でした。このような人は、おそらく、看護師にはなりたくないかもしれません。それでは、誰が、将来、老人の介護をしてくれるのでしょうか。

移民の受入に反対の人は、移民の文化と日本文化は違い過ぎると言われますが、多元性、異文化の共存は日本の伝統でもあります。神道と仏教は共存していて、クリスマスのような欧米の行事も人気があります。日本でクリスマスに食べるケンタッキーフライドチキン、おいしくないですか。

職業のほかに、難民も移民も文化を持って来ます。ときおり、これは問題と言われてはいますが、私は文化の交流はポジティブなことだと考えます。

例えば、毎年ストックホルムでお花見があります。スウェーデン人は日本料理を食べたり、日本の踊りや美術や着物を見たり、日本の音楽を聞いたりできます。

しかし、スウェーデンでも、日本でも、このような文化の交流が嫌いな人がいて、ナショナリズムの考えがあります。もちろん、スウェーデンや日本の独自の文化は大切ですが、異文化の交流はそれぞれの文化を殺してはいけません。文化交流はお互いの文化を豊かにしてくれます。だから、日本も積極的に難民を受け入れる国になることを期待しています。

2016年1月23日(土)に実施された、在スウェーデン日本国大使館主催「日本語弁論大会」優勝スピーチ。昨年、IFAの実施した「日本研修」に参加した生徒。

平成28年2月17日発行
一般社団法人 国際フレンドシップ協会
〒106-0041 東京都港区麻布台3-4-12
麻布台ロイヤルプラザ703
発行責任者：及川 伊佐子
編集：事務局 03(3582)3021
印刷：音和堂印刷刷



第8回、日本研修

～スウェーデン高校生の期待～

スウェーデン・トンバ高校の訪日研修は今年で8年目となり、6月5日から20日までの16日間、日本語を学ぶ高校2年生15名(男子5名、女子10名)がホームステイをしながら日本の高校に通う。ここにホストファミリーへのメッセージを抜粋し紹介する。



Erik A. エリク アンドレアソン (男子)

私は言語が大好きですから人文学を勉強しています。音楽も大好きです。夢はアイドルになることですが、アイドルになることはとても難しいですから、日本で英語とヨーロッパの歴史の先生になりたいです。子どものころから日本に行きたかったです。日本へ行く前に日本語をたくさん学びます。

Sofia A. ソフィア アルヴィドソン (女子)

私と私の家族はフッディングに住んでいます。静かできれいな街です。大きい家や森があります。私は本が好き

ですからよく本を読みます。好きな作家はタヘレ・マフィです。マフィの“Shatter me”はとっても面白いです。日本の食べ物が好きです。すしやラーメンが一番好きです。絵を描くことも好きです。肖像画を描くのが好きです。

Sofia E. ソフィア エルトマン (女子)

私は学校でスウェーデン語と英語とスペイン語とラテン語と日本語を勉強しています。趣味は新しい言語を勉強することです。学校の外でアイルランド語を自分で勉強しています。ギターを弾くこと、本を読むことも好きです。好きな作家はニール・ゲイマンです。

Isac イサク (男子)

学校で日本語かスペイン語を勉強しています。日本の漢字はむずかしいです。でも、とてもおもしろいですよ。私はしんせつな人です。新しい体験が好きです。東の文化はおもしろいからです日本語は楽しいです。本を読むこと、音楽を聞くことが大好きです。ギターを弾いたり映画を見たりします。

Anna アンナ (女子)

私の家族はロシア人ですが、スウェーデンのトンバに住んでいます。趣味はアニメと音楽とピアノです。好きなアニメはナルトとワンピースです。私の好きな音楽はK-ポップスです。日本に行きますのでお寺と渋谷に行きたいです。

Eric L. エリク ラウレンス (男子)

人文学の勉強で、英語とラテン語が得意です。日本語は難しいですが、おもしろいです。趣味は絵をかくことです。サイエンスフィクションの本が大好きです。日本の音楽を聞くことも好きです。音楽の中で演歌が一番好きです。週末によく友だちとゲームをします。日本に行くのが楽しみです。

Therese テレース (女子)

私は人と話すことが大好きで、すぐに友だちをつくることができます。日本で新しい友だちをたくさんつくって、みんなとたくさん遊びたいです。趣味はスポーツセンターに行くことです。日本のドラマを見ることも大好きです。好きな俳優は、小栗旬と三浦春馬と堀北真希です。好きなドラマは、花より男子と花きみとアタシんちの男子です。毎日、日本語を勉強するためにインターネットでドラマや音楽を見たり聞いたりしています。

Aleksandra アレクサンドラ (女子)

私の家族は父と母と姉と兄です。父はセルビア人で母はフィンランド人ですから、私はセルビア人とフィンランド人のハーフです。日本語とスペイン語とラテン語を学んでいます。ダンスと音楽が好きです。姉といっしょにダンスをします。アニメも好きです。夢はジブリ博物館に行くことです。

(本人手記の抜粋、校正：編集)

世界万華鏡

スペイン留学生の見た日本 イリス コントララス 「まさか失礼なことをしましたか」

「初めまして。私はイリスです。よろしくお願ひします」

日本に来たばかりのころ、知り合いに日本人の女の子を紹介された時のことです。目が大きくてかわいい女の子でした。私は日本語を間違えないように気をつけながらあいさつしました。

すると、彼女はびっくりして、大きい目ももっと大きくなりました。私、まさか失礼なことをしましたか。汗をかいて、すごく心配になりました。自分がしたことを一つひとつ思い出してみると「あ！それだ！」とやっとわかりました。

では、私は何をしたのでしょうか。私は彼女に「キス」をしたのです。スペインでは初めて会った人とあいさつするとき、頬に「チュッチュッ」と二回キスをするものです。日本人にとっては、このような習慣がないので恥ずかしいかもしれません。

スペインのあいさつのしかたを説明したら、彼女は笑って、理解してくれました。あいさつのしかたは国によって違うにきまっています。よく考えると、日本とスペインの一番の違いは「体のコミュニケーション」だと思います。スペイン人にとって体のコミュニケーションは絶対に必要です。



なぜなら、「あなたを受け入れます」、「仲良くしましょう」という気持ちをお互いに伝えるサインだからです。逆に、されないと「私って嫌われてるの」と心配になってしまいます。

一方、日本人には距離が必要です。適度な距離を取るのには、「相手のテリトリーを尊重する」という意味があるようです。つまり、体に触らないことこそ、「思いやりのサイン」なのではないでしょうか。

それでは、初めて会った人とあいさつをするとき「日本では一体どうすればいいのかな」と気になりました。そこで日本人の様子をよく観察してみました。50センチぐらいあけて、軽くほほえみをうかべ、頭を少しげたらパーフェクトです。

留学生のみなさんも、日本で私のように「まさか失礼なことをしましたか」と思うこともあるでしょう。でも、それは失敗ではなく、「ふるまい」の文化の違いを知らなかっただけです。日本人と会話をするとき、言葉よりも、その場に適したふるまいが大切になることもあります。

「ふるまい」とは、体を全部使って発信する、いわゆる一つの言語です。相手に触ること、相手との距離を考慮すること、微妙な顔の表情を作ることなど、体験があってこそ、これらをうまく使い分けられます。

そして、日本にいる今しかこの「使い分け」を勉強するチャンスはありません。相手を思いやる気持ちさえ忘れなければ、たとえ間違っても大丈夫です。さあ、みなさんも私と一緒に「ふるまいの勉強」を頑張りましょう。

IFA 後援、「第10回日本語学校合同スピーチ大会」第3位スピーチ。

平成28年1月17日発行
一般社団法人 国際フレンドシップ協会
〒106-0041 東京都港区麻布台3-4-12
麻布台ロイヤルプラザ703
発行責任者：及川 伊佐子
編集：事務局 03(3582)3021
印刷：音和堂印刷



第7回、日本研修

～スウェーデン高校生の抱負～

「スウェーデン・トンバ高校訪日研修事業」は、ストックホルム県ポートシルカ市トンバ高校で日本語を学ぶ高校2年生に、日本での高校体験入学やホームステイを通して、日本語のレベルアップと幅広い日本理解を促進することを目的としている。7年目の今年は5名が3月29日から4月12日まで研修に参加する。ここにホストファミリーへのメッセージを抜粋し紹介する。

◇

ウィリアム カールソン・テイラー

私はウットランに住んでいます。ストックホルムの郊外です。私の家族は4人で、母と父、妹です。家にウサギがいます。ウサギの名前はアリスです。

趣味は合気道とエレキベース。ロックやポップやファンクやインディーや電子音楽が好きです。日本のKIDO YOJIやLUNA SEAが好きです。

休みによく本を読みます。文学は面白いと思います。高校の専攻は人文学で、日本語とフランス語を勉強します。

将来の仕事はわかりませんが、大学で人文学と日本語を勉強したいです。

ファッションが好きだから日本で買いたい物があります。原宿と渋谷へ行きたいです。日本の食べ物、回転ずしと日本の朝ご飯もためしたいです。プリクラを撮りたいです。日本のお菓子を買いたいです。お寺や公園に行きたいです。学校で日本のクラブをためしたいです。剣道や茶道です。

ミシェル ヘドストローム

はじめまして。私はグネスタに家族と住んでいます。父と母、兄が3人、姉が2人います。ねこが2匹います。

私の趣味は音楽やゲームです。ギターを弾くこと、歌を歌うこと、友だちに会うこと、旅行することが好きです。そしてアニメが好きです。ワンピースやブリーチがあります。

日本でカルチャーを見たいです。日本の食べ物を食べたいです。新しい友だちに会いたいです。そして、ホストファミリーを楽しみにしています。

テア ルンドストローム

こんにちは。私はストックホルムに住んでいます。家族は父母と妹です。私はインターネット、テレビゲーム、まんがとアニメが好きです。一番好きなアニメはワンピースです。

私は日本で有名どころがたくさん見たいです。日本の伝統的な料理を食べたいです。そして新しい友人に会いたいです。私はあなたに会えるのを楽

しみにしています。

スサンナ マテイ

こんにちは。私は16歳です。イタリア人ですが、スウェーデンに家族と14年住んでいます。日本語を2年勉強しています。私の家族はカトリックで、教会は私たちをスウェーデンにおくりました。私の家族は大きいです。12人です。姉が4人、兄が3人、妹が2人、そして父母と私。父は映画が好きです。母は看護士です。私の趣味は歌を歌うことや小説を書くことです。

私はアニメが大好きです。たとえば、「進撃の巨人」や「フリー」です。音楽も好きです。とくにロックやボーカロイドです。好きな食べ物はパスタやすしです。

メリッサ トウンチ

はじめまして。私はスウェーデンに住んでいますがトルコ人です。父と母と兄と一緒に住んでいます。

私はまんがとアニメが好きでアニメのファンです。ひまなときまんがを読みます。ゲームもします。

長い旅のとき、スウェーデン語の本も読みます。私は日本語に興味をもっています。日本のことをもっと知りたいです。日本の文化を学び、東京タワーに行きたいです。渋谷にも行きたいです。日本の文化はとてもおもしろいと思っています。日本の食べ物をためしてみたいです。

(平仮名表記を一部漢字に編集)

世界万華鏡

通訳ボランティア

かねこ 金子

しんじ 進次

シリーズ③

チリ・パスクワ島を訪れて

2014年春のピースボート地球一周クルーズにおいて最長となる4日間のペルー滞在を終えて船に戻ると、持ち込んでいた私物のギターを貸して欲しいという依頼をスタッフから受けた。ミュージシャン兼現地 NGO (非政府組織) の代表であるパスクワ島からのゲストが船内で作曲と演奏を行うために使いたいとのこと。彼のおおらかな人柄に感銘を受け、すぐに快諾した。

パスクワ島は日本では一般的にイースター島という英語名で知られ、モアイ像で有名である。一方、人口の6割を占める先住民系の人々にはラパ・ヌイという現地語名で呼ばれている。ピースボートでは先住民文化に敬意を表す意味でラパ・ヌイと呼んでいる。

太平洋の絶海の孤島であるラパ・ヌイだが、近代化や欧米文化の流入により独自の文化や言語が失われつつあるそうだ。彼の NGO は、音楽やダンスを通じてラパ・ヌイの伝統文化を継承し守っていくことを使命としている。

彼は船内でホコと呼ばれる力強いダンスや、優しく神秘的な素晴らしい演奏を披露した。ホコはニュージーランドのハカというダンスにも似ており、ポリネシア文化圏の文化のつながりを

感じた。ボンゴや和太鼓の演奏で彼と一緒にステージに立つことができたのは忘れがたい思い出となった。

ペルー出発から6日後にラパ・ヌイに到着した。大型船が停泊できる港を持たないラパ・ヌイへは、テンドーボートという小型船に乗り込んで上陸した。美しい砂浜の近くには、数体のモアイ像が並んでいた。

船着き場の近くでオーストラリア出身の陽気な現地ガイドと落ち合う。彼はラパ・ヌイで考古学の研究を行っており、5年ほど滞在しているそうだ。

モアイは有力な首長や勇者たちを祀るために作られ、部族を見守る役割を担っていたという説が有力だ。ポリネシア地域の他の島々でも同様に祖先を祀る像が作られているが、ラパ・ヌイではモアイ作りの文化が極端に発展し、年月をかけ次第に像が大型化していった。島には作りかけのものも含め1000体ものモアイが存在し、最大級のものには長さ20メートル、重さ90トンに達する。

ラパ・ヌイにはほとんど樹木が生えておらず、どこまでも草原が続いている。どことなく神秘的な雰囲気があり、とにかく清々しい。



船内での演奏会。写真提供：梶浦崇志

ラパ・ヌイと日本にはモアイを通じた強いつながりがある。日本の大手建設機械メーカーがクレーンを提供し、津波などで倒れたモアイの修復に大きく貢献したのだ。一方、東日本大震災からの復興を願って、宮城県南三陸町にモアイのレプリカが寄贈されている。

夜には現地 NGO のメンバーでもあるミュージシャンやダンサーたちによるショーが船内で開催された。彼らは島内で初となる音楽学校の設立を目指し活動している。完成した際にはぜひ訪れてみたいものだ。

平成27年1月17日発行
一般社団法人 国際フレンドシップ協会
〒106-0041 東京都港区麻布台3-4-12
麻布台ロイヤルプラザ502
発行責任者：及川 伊佐子
編集：事務局 03(3582)3021
印刷：音和堂印刷株式会社



第5回、訪日研修

～スウェーデン高校生～

IFA では在スウェーデン日本国大使館の紹介を受け、平成21年度より毎年、スウェーデン・ストックホルム県ポートシルカ市立トンバ高校の訪日研修を実施運営している。

日本語学習のレベルアップと日本文化理解を目的とする本研修も本年度で5回目。同校で日本語を専攻する2年生8名が引率の先生2名と4月1日から15日の日程で来日した。

一行は、1週目にオリエンテーションと視察、2週目には東京と神奈川の受入高校4校のご協力のもとホームステイと学校体験を行い、日本語を実地に使いながら、日本の文化や生活習慣を学んだ。研修の様子と生徒の感想を以下に紹介する。

●日本事情オリエンテーション

1日の早朝に到着した一行は、都内宿舎へ移動前に千葉県成田山を見学、

2～3日目は1泊の箱根視察を行った。箱根では、旅館の畳の部屋で浴衣に着替えお風呂の入り方、日本食を実習し、日本の生活を学ぶ場となった。

4日目は終日オリエンテーション。来日前に本国でも準備学習をしてきたが、午前中は日本の家庭、高校での生活について再確認した。午後の「語り継ぐ日本の心」代表の横山総三講師による日本理解講義では、相手を慮る日本人の考え方に由来する日本語の表現、伝統的な日本の価値観など、初めて学ぶ内容に皆、熱心に聴き入っていた。



スウェーデン大使館表敬訪問

5日目は、電車の乗り方など実地訓練を兼ねて都内視察。江戸東京博物館で日本の歴史を学び、浅草を散策、夕刻には、在京スウェーデン大使館を表敬訪問し、広報文化担当官と面談。全員が日本への留学希望と手を挙げた。

翌日は、大学生ボランティアとの交流会と明治神宮見学、2、3人と少人数での原宿、表参道での自由行動。台風接近で短時間となったが、同年代同士すぐに打ち解け、話が弾んだ。

●日本の学校体験とホームステイ

7日目にホストファミリーと対面した一行は、笑顔で各家庭へ向かい、ホームステイと学校体験を開始した。

満員電車等での登校、全校生の前での自己紹介や講義でのスウェーデンについての発表、通常授業やクラブ活動への参加など、難しい日本語に苦勞しながらも、多くの友だちをつくり、新たなことに挑戦した。

過去の参加者には再来日する者や続けて日本語を学ぶ生徒もあり、本研修参加者の今後の活躍が期待される。

●感想あれこれ

- ◇本当に美しい国で驚かされた。
- ◇日本語の表現が実際にはどんな意味を持っているのかずっと知りたかった。日本文化について斬新な見方を学ぶことができた。
- ◇研修で自信がついたので、もっと日本語を使うことができると思う。常識や自然な振る舞いについても学ぶことができた。
- ◇きっとまた戻って来たい。日本の家族と学校が本当に大好き。日本の文化や生活にうまく順応できた。
- ◇クラブ活動で得た友人たちを絶対に忘れない。クラスメートも少しシャイだったがとてもよくしてくれた。日本についてもっと学びたいと思う人に本プログラムを推薦したい。

世界万華鏡

“アジアの留学生の見た日本”

第9回日本語学校合同スピーチ大会参加者

●「日本の強さ」

ムクンド・タティパムラ (インド)

日本人の一番いい特徴はどんな仕事でも地位が低くても偉くても日本人は誠実にしていることです。区役所で相談するときも、郵便局で何か送るときも、タクシーに乗ったり、銀行員と電話で話すときも、たいてい、ていねいさと誠実さを感じられます。

他の国に比べると日本の長所は「チームワーク」だと思います。だからどこで見ても、ほとんどはんで押したみたいに行われます。チームワークの最高の実例は日本の鉄道だと思います。東京では毎日、4000万人の人が鉄道を利用しています。たいきょくてきに考えると、その数字は世界の大きな町の人口の2、3倍ぐらいです。小さい子どももやからだの不自由な人やお年寄りの人も利用できるのはすごいことだと思います。インフラ開発についての計画では、日本は他の国より高度で安全性が高いと思います。でも日本人は他の国に比べて、もともと謙虚な人たちだと思います。今、日本の実力や実績を世界に、特にインドにもっと示すとインドにいい影響があると思います。

●「接客態度」

チャン・ホック・トゥエン (ベトナム)

3年前、大阪にあるスーパーで私は売り場を担当しました。初めて売り場に入るとき、店長に「トゥエン君、売り場に一步入ったら、あんたはうちの店の顔や。売り場に戻るときは必ず、『いらっしゃいませ』って言うてや」と言われました。次の日、店長と売り場に戻る瞬間、私は恥ずかしくなって、「いらっしゃいませ」と言えませんでした。しばらくして私は事務所に呼ばれました。事務所に入るなり店長は「社員でもアルバイトでも『私はプロや』という意識をもたなければ首になるで。

わかる」と。もちろん、次の日から私はちゃんと「いらっしゃいませ」と言うようになりました。

また、日本の店では何も買わなくても店員が、「ありがとうございます。またお越しくださいませ」と言います。店長は、「うちの店のために貴重なお時間をいただき、本当にありがとうございます」という意味も含まれているんだから」と教えてくれました。

(スピーチ原稿から抜粋)

平成25年5月17日発行
一般社団法人 国際フレンドシップ協会
〒106-0041 東京都港区麻布台3-4-12
麻布台ロイヤルプラザ502
発行責任者：及川 伊佐子
編集：事務局 03(3582)3021
印刷：音和堂印刷株式会社

第29回夏期ジュニア大使友情使節団 シアトル班 2013年8月 団員募集

当協会では、今夏実施する「ジュニア大使・米国シアトル班」の参加者を募集しています。本事業は多感な子どもたちが国際社会への理解や外国語への関心を深め、様々な文化に接することを通して正しい国際感覚を身につけ、立派な国際人材として育ててほしいとの願いから、訪問先の公的機関の後援を得て毎年、組織しています。詳細は以下の通り。

- 実施機関：一般社団法人国際フレンドシップ協会
- 参加費用：52万8千円
- 後援：米国ワシントン州政府
- 応募方法：「応募用紙」を請求の上、応募
- 研修期間：8月8日(金)～8月19日(金)
- 応募締切：7月1日(月)
- 参加資格：中1～高3、15名予定
- 募集説明会：5月25日(土) 東京
6月9日(日) 神戸、他随時

■問合せ先：一般社団法人国際フレンドシップ協会 担当：草場、小林、及川
〒106-0041 東京都港区麻布台3-4-12 麻布台ロイヤルプラザ502
TEL 03-3582-3021、FAX 03-3582-3010
E-mail: junior-ambassadors@ifajapan.org



第4回、日本研修

～スウェーデン高校生の感想～

先月号で紹介したスウェーデン・トンバ高校の訪日研修。今回は、参加した11名の生徒のレポートから、来日前に思っていた日本を踏まえ、研修後の日本の印象について語ってもらった。

◇

・1番は混んでいる電車、思っていたよりもすごかった。とても優しい人たち、とっても美味しい食事。桜がとても素晴らしかった。

・日本はとても小さい国だと思ったと同時に、大きいとも感じた。というのも、ここで私自身が小さな存在で、世界は広いと感じたからです。そして世界のどの他の国も、この日本にとって代わる国はないです。

・日本人はとても礼儀正しく、物事をまじめに考える。そしてとてもきれいな印象は来る前と来たあとでまったく変わっていない。

・日本人はとても礼儀正しく、物事をまじめに考えているけれど、ゆっくりとくつろいで、楽しんでる。



・マンガの国。考え方が読んでるマンガからきていると思っていた。実際は、まったく新たな思考をしている。人々は、ある種のハーモニーの中に暮らしている。1つひとつ書ききれない。

・日本のドラマで見たイメージと変わらなかった。

・はじめて知り合った人と話すのに臆病な感じ。すべてが期待していた以上の日本だった。

・思っていた以上に素晴らしかった。ここが自分の家のように感じている。日本の日常生活や都会の生活、学校生活が私に合っているのだと思う。

・教養のある国民で、皆が英語を話すと思っていたが、誰も英語を話してなかった。でも日本はなんて美しく、きれいで、平和なんだろうと思った。

・一度も迷子にならず、自分自身、落ちついて過ごせる場所だった。

・完璧に日本に恋してしまった。必ず帰ってきたい。

第28回夏期ジュニア大使友情使節団 2012年7月～8月 団員募集

当協会では、今夏実施する「ジュニア大使・米国シアトル班」の参加者を募集しています。本事業は多感な子どもたちが国際社会への理解や外国語への関心を深め、様々な文化に接することを通して正しい国際感覚を身につけ、立派な国際人材として育ててほしいとの願いから、訪問先の公的機関の後援を得て毎年、組織しています。詳細は以下の通り。

- | | |
|-------------------------|------------------------|
| ■実施機関：一般社団法人国際フレンドシップ協会 | ■参加費用：49万5千円 |
| ■後援：米国ワシントン州政府 | ■応募方法：「応募用紙」を請求の上、応募 |
| ■研修期間：7月30日(月)～8月10日(金) | ■応募締切：6月29日(金) |
| ■参加資格：中1～高3 30名予定 | ■募集説明会：5月26日(土) 東京、他随時 |

■問合せ先：一般社団法人国際フレンドシップ協会 担当：草場、及川
〒106-0041 東京都港区麻布台3-4-12 麻布台ロイヤルプラザ502
TEL 03-3582-3021、FAX 03-3582-3010
E-mail: junior-ambassadors@ifajapan.org

世界万華鏡

日本語教師 **いちかわ 市川** **ともたけ 伴武**

パラグアイ③ ピラポ市

パラグアイ国ピラポ市は首都アスンシオンからバスで8時間ほど南に下ったところにあります。パラグアイ第3の都市、南部のエンカルナシオン市からバスで1時間半ほどの距離にある日系移住地です。ピラポという名前は、現地インディオの言葉であるグアラニー語で「ピラ」は「魚」、「ポ」は「手」を表し、魚が手でつかめるほど多い場所という意味でつけられたと言われていました。ピラポ市の面積は84,000ヘクタール。人口は7,000人ほどで、そのうち、日系人は約1,300人です。主な産業は農業で、大豆、小麦、とうもろこし、ひまわりなどが産物です。市長は日々日系人の方がされています。

◇

ここは、自然に日本人移民が集まって住み着いた場所ではなく、最初から日本国が用意した土地です。同じパラグアイですと、ピラポ移住地の他にラパス移住地、イグアス移住地も同様に国が用意した移住地です。これらの移住には戦争が大きく関わっています。日本の敗戦後、アジア地域からの引き揚げ者・復員軍人などが多くに日本に帰えられました。その人口対策として政策的に海外移住を進めたのです。

ここでポイントになるのは、南米への移住の歴史や経緯を日本人の多くが知らないということです。かく言う私も、実は派遣前研修を受けるまでは全くといっていいほど、移住の歴史や経緯というものを知りませんでした。なぜ、今まで知らずにいたんだろう。大学受験を日本史でしたにもかかわらず、何たることだ、と自らに問わずにはいられません。自分たちと同じ日本の血が流れている人たちが地球の反対側にたくさんいて、その人たちが尋常ではない努力を重ね、今なお異国で「日本」を継承し続けているのです。

◇

パラグアイの隣国ブラジルは移住の歴史は100年を越えますが、パラグアイは戦後移住が中心のため比較的新しい移住先です。1960年8月に第1陣がピラポ移住地に入植しました。一昨年、2010年の8月で50周年を迎えましたが、見方を変えると、まだ移住してからたったの50年しか経っていないのです。それゆえ、一世の方、つまり移住されたご本人方も元気でいらっしゃいます。ここピラポ市には岩手県や高知県、愛媛県出身の方が多く、移住してからの歴史も浅いため、まだまだ「古きよき

田舎の日本」が色濃く残っています。この町に過ごして2年、私の日常生活では日本語しか使いません。これは日本語教師という職種だからではありません。この町では日本語だけで本当に生活できてしまうのです。

スーパーでもレジは皆さん日系人なので、日本語でOKです。スーパーには通常のものに加えて、漬物、豆腐、油揚げ、厚揚げ、納豆、うどん、味噌など自家製の品々が並びます。餅も自分たちでつくりますし、自家製ラーメンを作っているところさえあります。私の食生活も日本と何ら変わらない和食が中心です。むしろ日本にいたときよりも和食を食べているかもしれません。日系人ではない純粋なパラグアイ人の方の店でさえ携帯電話料金を支払おうとすると、私の顔を見るなり、「ナンボ(いくら?)」と言うので、一瞬、面食らってしまいました。素晴らしき、日系移住地…。(つづく)

平成24年5月17日発行
一般社団法人 国際フレンドシップ協会
〒106-0041 東京都港区麻布台3-4-12
麻布台ロイヤルプラザ502
発行責任者：及川 伊佐子
編集：事務局 03(3582)3021
印刷：音和堂印刷



第4回、日本研修

～スウェーデン高校生訪日研修～

IFAでは平成21年度より毎年、スウェーデン・ストックホルム県のポートシルカ市立トンバ高校の訪日研修を実施運営している。この研修は同校が在スウェーデン日本国大使館に相談し、大使館の紹介によりIFAが企画した。

4年目となる今年の研修は、4月3日から16日までの日程で行われ、同校の東洋言語学コースで日本語を専攻する2年生11名が参加した。

目的は日本語学習のレベルアップと日本文化理解。東京と神奈川の受入高校4校のご協力が得られ、ホームステイをしながらの学校体験を中心に、都内視察や箱根への旅行も含め、日本文化と生活習慣に直に触れた。



●日本事情オリエンテーション

研修初日、早朝に到着したが、折しも午後には暴風雨が警戒されるあいにくの天候。東京都庁での議事堂見学を終え、早々に宿舎での研修とした。

2日目は終日オリエンテーション。一行は、日本研修のために1年半にわたり日本事情を学んできたが、来日し、日本の家庭生活と高校生活について再確認し、地震の対応についても学んだ。

日本理解講座としては、「語り継ぐ日本の心」代表の横山総三講師に英語による講義を受け、伝統的な日本人の心、日本的価値観などについて学んだ。



オリエンテーション、横山総三講師と

自己主張よりも相手の心を慮るという日本人の考え方、「おはようございます」や「さようなら」といった挨拶言葉の本来の意味など、日本文化を深く理解する手掛かりを得て、皆、感心し、講義後には感激した生徒が「一緒に写真を」と駆け寄り、皆で講師を囲んだ。

夕刻は、在京スウェーデン大使館を表敬訪問、広報文化担当官と面談した。移動は電車を利用し乗り方や日本語の実地訓練を兼ねた。翌日の都内視察は、下町情緒に触れた後、江戸東京博物館にて日本の歴史を学び、午後は、日本の大学生ボランティア13名と原宿を散策。同年代の若者との交流に皆、目

を輝かせ、笑い声が絶えなかった。

電車による箱根への一泊旅行では、畳の部屋での過ごし方やお風呂の入り方、日本食などを実習した。5日目の7日夕刻、都内会場にて迎えに来てくださったホストファミリーと対面、笑顔で各家庭に向った。

●日本の学校体験

通学は、本国内で体験のない満員の電車やバスなどを利用したが、ホスト生徒の助けを得て、毎日元気に登校した。

学校では、所属クラスの通常授業にも参加し、難しい日本語がなかなか聞き取れず奮闘する場面もあったが、社会科学見学や新入生歓迎会などの行事にも参加し、クラスメートと日本語で積極的に交流した。また、コンピュータを使ってスウェーデンの紹介も行った。

放課後は、剣道、野球、茶道などの部活動を日本人生徒とともに行った。本国とは異なり、夕方6時近くまでの学校生活に驚きと疲れもあったが、それぞれ充実した学校生活を送った。

ホームステイ中は、ご厚意で見学やさまざまな日本体験をさせていただき、帰国前日のホストファミリーとのお別れでは涙が止まらず、「もっと日本にいたい」、「スウェーデンに帰りたくない」など、皆、口々に語っていた。

過去3回の研修に参加した生徒のうち7名が日本研究を卒業論文とし、昨年は1名が再来日している。こうした流れが広まることが期待される。

世界万華鏡

日本語教育 ながほすみお 永保澄雄 シリーズ⑮

ニュージーランド “キーウィ”

キーウィと聞くとまず思い浮かべるのはあのフルーツであろう。しかし私は仕事でニュージーランドに行って、まずそれが鳥の名前であり、果物は「キーウィフルーツ」と呼ぶのだと知った。

キーウィはうずらやしゃこのような飛べない鳥で、もともとニュージーランドにはその天敵がいなかったために飛べなくなったそうである。キーウィと鳴くので先住民族のマオリ族の人がそう名付けたと聞いたが、夜行性のため普段我々が目にすることはない。

家族単位で暮らし体重の半分くらいミミズを食べるらしい。そのミミズも日本のミミズの何倍も大きく、くちばしはそれを掘るために長く大きい。その根元にかわいい丸い目がついている。

ではなぜ鳥の名が果物の名前になってしまったのか。キーウィの原産地は南中国で、羊桃と呼んでいたらしい。それを農業大国のニュージーランドは今のように立派に育てあげ、いよいよ国外に輸出するというときに、輸出会社の人たちが、ニュージーランドらしい名前をと相談して決まったそうだ。(本欄、平成19年12月号参照)

ニュージーランドの人たちが好んで

使う言い方に「キーウィピープル」というのがある。キーウィはメスが卵を生み、それをオスが抱いてかえすそうである。それで家事をよく手伝う亭主を「キーウィハズバンド」と呼ぶようになった。実際この国の亭主たちはよく家のことを手伝う。ホームパーティのあとの皿洗いは、どの家も男の人の仕事であり、男の子が手伝う。それがだんだん広く使われるようになり、キーウィピープルはそのままニュージーランドの人たちを指すようになった。

4年の滞在で学ぶことは多かった。特に私が感じたのは自立の志である。私がいたころに夫に死なれた八十過ぎのおばあさんが車の免許を取り運転をはじめたという記事が新聞に載った。この国でもニュースになるのだ。しかしそれをやめさせようという動きはなかった。逆に、おばあちゃんの運転する車の前後を挟むようにして2台の車が走っていた。そういうお国柄なのだ。

こんなこともあった。ウエリントンの街を走るバスでは学童たちは大人が立っている限り座らない。あるとき気付かずに座っていた子に老婦人が注意したら、その子は大人へん慌て、すぐに

立ちお詫びした。そういう情景は日本ではもう見られなくなった。

総じてキーウィピープルはやさしいが、男たちはがっしりと大きい人が多い。ラグビーは国技で、ラグー(ラグビーをする人)であることは誇りのようだ。ラグビーの練習で耳が半分千切れているのを自慢するハイスクール教師。子どもたちもそんな先生を誇りに思う。こうした教師がいる限り校内暴力など起りようがないのである。

国民の多くが敬虔なキリスト教徒であるが、もう一つよりどころがあるようである。日本からの女子留学生が不動産屋でもめた。彼女は相手にこう言った。「あなたはフェアではない」。彼は一ぺんにしょげて彼女の言い分を通じたという。ついでながら、空港の地上要員もキーウィと呼ばれている。それは飛べそうで飛べないからである。

平成24年4月17日発行
社団法人 国際フレンドシップ協会
〒106-0041 東京都港区麻布台3-4-12
麻布台ロイヤルプラザ502
発行責任者：及川 伊佐子
編集：事務局 03(3582)3021
印刷：音和堂印刷株式会社



第3回、日本研修

～スウェーデン高校生訪日研修～

IFAは平成21年4月から、在スウェーデン日本国大使館の紹介により、スウェーデン・ストックホルム県のポートシルカ市立トンバ高校の訪日研修を企画実施している。

3年目となる今年は、6月4日から20日まで同校の東洋言語学コースで日本語を専攻する2年生8名が17日間の研修を行う。当初4月の初めの来日予定だったところ、東日本大震災により実施が延期されこの日程となった。目的は日本語学習のレベルアップと日本文化理解で、東京と神奈川の受入高校4校のご協力を得て、学校体験とホームステイ、さらには都内視察や箱根での1泊旅行などを通し、日本文化と生活習慣に親しみ交流を図った。

●日本事情オリエンテーション

来日翌日より、日本事情オリエンテーションを開始し、午前中は電車の乗り

方の実習も兼ねて江戸東京博物館を訪問、日本の歴史を学び、午後は、日本の大学生8名のボランティアと浅草寺や仲見世通りの散策と昼食。その後、水上バスで日の出桟橋に向かった。皆、東京のビル群と下町風情を肌で感じ、「来てよかった」と話していた。

翌日は、宿泊先の国立オリンピック記念青少年総合センターでの研修で、日本の家庭生活と高校生活についての再確認を行った。一行は、高校入学時より2年次に行う日本研修のために1年半かけて現地で日本事情を学んできたが、来日直後のオリエンテーションはその総仕上げの場となる。



オリエンテーション、横山総三講師と

午後は、「語り継ぐ日本の心」代表の横山総三講師による英語の講義を受け、伝統的な日本人の心、生活習慣やマナー、価値観などについて学んだ。

「おはようございます」や「さようなら」といった挨拶言葉の本来の意味を知り、さらには自己主張よりも相手の心を慮るという日本人の考え方に、皆、感心し、うなずいていた。講義が終わると代表生徒より、「これまでの人生でこれほど素晴らしい講義を聞いた

ことがない」とのお礼の挨拶があった。電車による箱根への一泊旅行では、畳の部屋での過ごし方やお風呂の入り方、日本食などについても実習した。6日目の9日夕刻、都内会場に迎えに来てくださったホストファミリーとともに皆、笑顔で各家庭に向かった。

●日本の学校体験

ホストファミリー宅から学校へはそれぞれ電車通学を行い、心配されたラッシュ時の通学もホスト生徒や同じ方向に帰る生徒の助けも得て最後には一人でも通えるようになっていた。

学校では、授業の日本語がなかなか聞き取れず、あせりながらも積極的に参加した。一方、英語の授業では、コンピュータも使ってスウェーデンの紹介を行い、日本人生徒のいいスピーチの手本にもなった。

放課後は、スウェーデンにはない部活動を体験。剣道、書道、茶道、チア、写真などに夕方まで参加し、家に帰るころには疲れ果てる様子。スウェーデンでは、「10℃を過ぎると夏」という生活のため、元気な生徒たちも日本の6月の陽気には閉口していた。

週末はホストファミリーのご厚意でさまざまなところに出かけ、プリクラをとったり、買い物や見学なども行い、「スウェーデンに帰りたくない」、「また必ず日本に来ます」と皆、口々に語っていた。

世界万華鏡

なかた
中田

ひでみつ
秀光

シニア海外ボランティア パプアニューギニアでの生活④（最終考）

2年1ヵ月 PNG（パプアニューギニア）での生活を終えて帰国しました。大学の前期講義を完結するため、2年の任期を1ヵ月延長しての帰任です。

日本語教師の生活は、36年勤務した生命保険会社を定年退職したのちに始まりました。最初の赴任地はブラジル、次の中国はボランティアで、そして3度目が PNG でした。

今、思い返しても達成感のある仕事で、赴任中は Toksave（ピジン語でメッセージの意味）と題して現地の様子をお知らせしましたが、今回は全体を振り返って書いてみます。

結婚式でなく教会へ

私のいたゴロカ（首都のポートモレスビーから飛行機で1時間15分位）の人は普段はとても質素な服装をしています。それが自分の目を疑わんばかりの正装した集団に会ったことがありました。これは結婚式であろうと想像しました。でも次の週も同じ光景に出会いました。PNGへ来て間もない頃です。後で分かったことですが、教会の礼拝へ出かけるためだったのです。PNGではほとんどの方が敬虔なクリスチャンです。失礼な言い方ですが、どんなに貧しくても、どのご家庭でも正装を整え、それを着て礼拝に出かけるのです。子

もなどは外国映画の結婚式に出てもいいと思われるほどかわいい服装で教会へ行くのです。

雨季のはじまり

オーストラリアの北160km、赤道の直ぐ南に位置する PNG は、大小700を超える島々から成っています。気候は一年中、高温多湿で雨季と乾季に分かれます。10月の半ば過ぎ、雨季に入りかけているのか、夜中になると土砂降りの雨が何日も続きました。その頃になると、ジャカラントの花が散って、木の周りに紫の絨毯を敷きつめていきます。

子どもを背負うことがない

これは習慣の違いでしょう。PNGでは赤ん坊や小さな子どもを背負う姿を見たことがありません。皆、肩車をしています。男の人も女の人も同じです。PNGの既婚の女性の多くは縦・横同じに見えるくらい太っています。（こうした表現でごめんなさい）時には両腕で二人の子を軽々と抱えるご婦人を見かけることもあります。

3.11 大震災

現地は貧しいながら、3月11日の3日後にはチャリティーをしってください、

PNGでは多額の支援金を私に預けてくださいました。JICA（独立行政法人国際協力機構）の仕事でブラジル、そしてPNGと、異なる文化での共生の大変さを痛感していたときに、こうした心に響く思いを受け取り、代えがたい体験をしました。

それまでは、職員会議が6時間遅れたりして、怒鳴ってしまったこともありましたが、帰国前になると、何とキチンと時間を守ってくれるようになりました。

また、赴任直後は、教室がゴミの山のように、キャンディをあげたりするとその包み紙を平気で学生が捨てていました。それらをいつも私は黙って拾っていましたが、帰る頃には、学生自身が自分でゴミを持ち帰るようになっていたのです。

このPNGでの最後に心の通じるいい体験ができたことは、私の財産です。今はもう4回目の海外赴任を考えています。

平成23年6月17日発行
社団法人 国際フレンドシップ協会
〒106-0041 東京都港区麻布台3-4-12
麻布台ロイヤルプラザ502
発行責任者：及川 伊佐子
編集：事業部 03(3582)3021
印刷：音和堂印刷株式会社



第2回、日本研修

～スウェーデン高校生訪日研修～

IFAは昨年4月、在スウェーデン日本国大使館の紹介を受け、スウェーデン・ストックホルム県のポートシルカ市立トンバ高校の訪日研修を実施運営した。今年は2年目を迎え、同校の東洋言語学コースで日本語を専攻する新2年生11名が、3月28日から3週間の日本語研修を受け、折しもアイスランドの火山噴火により離日が1週間延期となり、4月24日に帰国した。

日本語学習のレベルアップと日本文化理解を目的とし、ポートシルカ市が費用を負担する。ここにホストファミリーからの感想を通し、参加高校生の健闘ぶりを紹介する。()内は生徒名。



●加藤 華織 ホストファミリー夫人 (ドナルド・トットラス)

問題が何もなく過ぎて少しぐらい問題があった方がエピソードとして残ったのではないかとこの贅沢な感想です。家ではマナーが良く、日本語への意欲も高く、自ら日本語で毎日、日記を書

いていました。子どもの絵本を読もうとチャレンジしてみたり、わからなくても一緒にテレビを見たりしていました。スウェーデンのオムレツも作ってもらい、楽しい2週間を過ごすことができました。学校でもたくさんの友だちと触れ合うことができましたようです。

最初は、2週間のホームステイと学校体験は時期的なこともあって実質1週間の通学という短さに、中途半端かとも思いましたが、やはり、スウェーデンだけで日本語を勉強しているよりも、日本に来て学校を体験することにより日本に対する興味と日本語に対する意欲が向上するので、とても良い試みだと思います。



●平石 亜紗実 ホストファミリー生徒 (ヨーアン・レントルブ)

スウェーデンの学校の話が聞けて日本の文化との違いを発見できたのが面白かった。ヨーアンはとても礼儀正しい人で優しい人でもあり、わからないことがあればすぐに聞いてくれる人だったので、とても楽しく、有意義な生活

を送ることができた。また、ヨーアンは日常生活の中でも日本語を学ぼうとしていて、雨が降っていると、「雨、rain」と尋ね、私が「寒いね」と言うと、「寒い、cold」と私が使う言葉を必死に日本語で覚えている姿が印象的だった。日本語の発音も字も綺麗だと思った。両親や兄もヨーアンと一緒によく話をし、とても楽しい時間を家族全員で過ごさせてもらえたのがとてもよかった。

●遠藤 良子 ホストファミリー夫人 (イェンニ・アンデルソン)

夫の両親は自慢のもちつき、タケノコ料理、私の母はきものと、イェンニに紹介でき、生き生きとして楽しそうでした。イェンニそして彼女の家族とも(スカイプを通して)接し、遠いスウェーデンが身近になりました。家から学校へは2駅と近いですが、電車の中の人の多さにびっくりしていました。

●宮本 恭子 ホストファミリー夫人 (オリヴィア・カールソン)

初めての体験で緊張しましたが、ありのままの日常生活を体験してもらうことが大事と考え接しました。我が娘と同年齢でもあり、国が変わっても同じことを沢山味わわせていただきました。毎日お弁当を「ありがとう」と言われ、帰宅すると器が洗ってあり嬉しかったです。12日間という限られた期間でしたので、共働きでフルタイム勤務の私は、帰宅時間を早め家族で夕食をとることにしたのもよい経験でした。

世界万華鏡

国際協力アドバイザー 五月女 光弘

琉球王国、そして沖縄島嶼国

日本の47都道府県の中で、今、人々が特別の思いで注目している県が沖縄県である。

沖縄は元来600年にわたり繁栄した太平洋の島嶼国「琉球王国」であり、日本と清国との複雑な状況を巧みな外交能力で円満な関係を築いてきた国であった。明治になり日本に併合され沖縄県としてスタートしたが、現在でも沖縄の人々は「琉球」への想いが深く、その旧名称は生き続けている。代表的な新聞は、「琉球新報」「沖縄タイムス」。銀行では、「琉球銀行」「沖縄銀行」。大学でも、「琉球大学」「沖縄国際大学」など2つの地域名が並存し使われている。食の分野でも同様である。

「琉球」も「沖縄」も、日清、日米の2大国の狭間で辛い思いをしてきた歴史的背景がある。しかし太平洋の唯一の先進島嶼国であった琉球王国の伝統を引き継いだ沖縄は現在、太平洋島嶼国(12ヶ国と2地域)の抱える問題を解決し支援するために、様々なプロジェクトを企画立案している。例えば、太陽光発電技術、津波対策技術、緊急無線通信網の構築などの分野での

技術の供与・人材育成などである。沖縄がこれから太平洋の国々の守護神として活躍することを期待したい。

そして一方で長年にわたり日本全体が負うべき苦労を一つの県で背負ってきた沖縄の現実から目をそらしてはいけないのである。

戦後の沖縄を語る上で、欠かせない一つの物語がある。1945年、大戦末期の沖縄戦において、艦艇を失い陸に上がった、大田實少将指揮の日本海軍陸戦隊1500は、米軍との熾烈な戦いを強いられた。しかし6月、全日本陸海軍の敗北が決定的となったとき、大田少将は日本本土との通信が不通となる直前に、次のような電信を海軍次官宛てに発信したのである。心情溢れる名文であった。概要は次のとおり。

「…沖縄県民かく戦えり…、後世格別のご高配を賜らんことを」

—沖縄県民は老若男女全ての人々が国を思い家族を思い、辛く苦しい中で命を懸けて日本のために尽くしてくれた。この戦いが終わり平和が訪れたときに、この沖縄の人々のために、沖縄復興のために、日本政府は、日本国民

は、特別の配慮をもって報いていただきたい。心よりお願い申し上げます—。

そして大田少将以下将兵は全員玉砕したのである。戦後独立を回復した日本は、大田少将(死後中将)の願いを受けて、特別の法律を制定し沖縄の復興に力を注いだのであった。

なお、余談であるが、大田中将には昭子さんというお嬢さんがおられた。戦後ニュージーランド(NZ)の男性と結婚し、NZに渡り永住、日本大使館広報文化センターに勤務、長く日・NZ文化交流に尽力された。筆者が在NZ・オークランド総領事の際、同地に来訪中の日本の総理より昭子さんはその功績を称えられ叙勲を受けられたのである。同じ太平洋に浮かぶ島国同士、沖縄に想いを馳せてほっとするひとときであった。

平成22年5月17日発行
社団法人 国際フレンドシップ協会
〒106-0041 東京都港区麻布台3-4-12
麻布台ロイヤルプラザ502
発行責任者：及川 伊佐子
編集：事業部 03(3582)3021
印刷：音和堂印刷

the COMMUNICATOR

特集号

心と心、世界と日本を結ぶ*コミュニケーター

特 集

平成20年度 日欧高校生交流プログラム

【短期】平成 20 年 6 月 29 日 (日) ~ 平成 20 年 8 月 3 日 (日)

【長期】平成 20 年 8 月 17 日 (日) ~ 平成 21 年 1 月 7 日 (水)

欧州の高校生が来日し、ホームステイと高校生活の体験をしている。生活を通して異なる文化的な溝を埋めるのがいかに大変か、まさにそれは人と人とのぶつかり合い。その中で同じ人としての共感を見出し、違いをわかり合う国際理解活動の大切さを、その最中にある方々の姿を通してお伝えする。

◇

欧州男子高校生受入ホスト夫人より

●初めてホストファミリーに

「ホストファミリーになってくださいませんか」と IFA からお話があったのは、大学生の娘の留学を1ヵ月後に控え、準備で忙しくしている時でした。丁度彼女の部屋が一つ空くこと、高1の息子にとって国際交流の良い機会であることを考え、お引き受けいたしました。ただ、IFA が希望される4ヵ月間は、初めてのことで不安もあり、家族の生活や仕事(自宅で小中高生に英語を教えている)との兼ね合いも考え、責任を持ってお引き受けできるのは約2ヵ月とお返事しました。

いざ受け入れ準備を始めると、食事のこと、生活習慣のことなど、どうすれば留学生が気持ちよく過ごせるだろうとあれこれ気になります。幸いホストファミリー経験者の友人がいたので相談すると、「彼は日本の生活を知らなくて来るのだから、普段どおりに生活すればいいよ。ベッドがなければ布団でもいい。食事でも食べられないものだけ聞いて、あとはいつもどおりでいい。イギリスに留学して日本食を出されても嬉しくないでしょう」と言われました。なるほどと納得しました。

また日本古来の文化についての知識が浅く困っている私に、「あなたが今誇れるものを紹介すればいいよ」とのアドバイス。私の誇れるもの…、それはまさしくこうして親身になってくれる友人・家族、また留学生を歓迎したいと楽しみにしている生徒達だと気づきました。こうした私のまわりの人々を紹介し、日本人の良さを知ってもらいたい。彼らの助けを借りながら、この2ヵ月を楽しもうと思いました。

●案ずるより産むが易し

娘を米国に送り出した翌日、イファン(IFAN:仮称)がやってきました。物静かで、あまり表情の変わらない穏やかな青年です。彼はとても優秀で日本語を流暢に話せ、メールも日本語でやりとりできます。何より日本の若者文化が大好きで、アニメ・マンガ・J-POP・ドラマと、何でもよく知っていました。息子とも教室の生徒達ともすぐに打ち解け、わが家でのウエルカムパーティーでは、みんな自分のお勧めのマンガやCDをイファンに紹介し、貸してあげていました。また、彼は大の和食党で私の作るものは何でも喜んで食べてくれます。お寿司はもちろん、お好み焼き、たこ焼きも大好物になりました。朝食はご飯・納豆・味噌汁。毎日デザートに大福やお団子をほおぼり幸せそうです。彼の影響で私たちも和菓子党になりました。ほぼ日本語でコミュニケーションを取れるので、ご近所のおばあさんや、スーパーの店員さんとも仲良しに。友人や生徒の家族に案内してもらい、街中見物も楽しんでいます。

●雨降って地固まる

それほど日本語が流暢に話せるイファンですが、学校生活が始まり、毎日お弁当を作って手渡しても何故か「ありがとう」の一言を言ってくれません。返すときも一言もなく、さすがに1週間その状態が続くと参ってしまいました。どうしたら感情的にならずに気持ちを伝えられるか。適切な英語で説明しようと考えあぐねた末に、『ありがとう』は魔法の言葉。皆、一言言ってもらおうと嬉しくなり、もっとあなたに何かをしてあげたくなる。誰かに何かをしてもらったら、必ず言ってね」と言いました。「そんなにたくさん言わないといけませんか？」とつぶやきながらもすぐに理解し、翌日からは、「ありがとう」「ごちそうさま」と言ってくれています。

またある時、他の生徒が先生に対して「ため口」をしているので、自分も皆と同じように言ってみようと言いだ



オリエンテーションのワークショップ
「やっていいこと悪いこと」を考える

しました。その少し前から、朝、息子を真似て、イファンが「おはよう」と私に言うようになり、どこか違和感を感じていた矢先です。息子の友人が泊まりにきた時は、「おはようございます」と言ってくれます。「あなたの立場は息子の友人と同じ。親しくても礼儀を尽くす方がよい印象を与える」と話しました。イファンは言葉を短くする方が、親しみを表現できると思っていたようです。先生方にも礼儀正しくあってほしいと私の気持ちを伝えました。

文化的違いを感じたのは、一緒にテレビで特攻隊の番組を見ていた時です。ある老齢の婦人が、恋人の形見として煙草の吸殻を大切に保管している場面で、彼が急に「It's funny (おかしい)」と笑い出したのです。息子と私はびっくりし、頭に血が上ってしまいました。どうしてここで笑えるのか全く分かりません。これはきちんと話さなければいけないと思いました。「母国ではあんなものは遺品にしない。指輪かネックレスだ」と言うイファンに、「あなたにとってつまらないものでも、あの人には宝物。相手を思いやる気持ちが大切で、こうした場面で笑うのは日本文化を侮辱しているように思われるかもしれないから注意が必要。おかしいと思っても笑わずに、なぜですかと聞けばいい」と話しました。彼にも言い分があり、その後かなりの時間話し合いました。これはとてもよいきっかけで、その日を境に思っていることを互いにきちんと言葉で伝えるようになり、ストレスがなくなりました。愛情を持って話せば必ず気持ちは伝わります。本当の家族のように過ごしている今、別れの日を思うと寂しくなります。

交流 レポート

ホストファミリーの思い

●本国から宿題が多く届く

大学受験を控えているようで、毎週のように本国のクラスメートから宿題が届いています。日本の高校生活は朝早くから午後までの授業、部活も夕方まであり、加えて土曜日にも授業があります。日本語による授業についていくのも、かなり勉強が必要です。現状、日々、疲れがたまり家族との会話もままなりません。

◆IFAとしては、今後の課題として、本国の宿題や大学受験の勉強が必要な期間と来日が重なる場合は、本プログラムの参加は難しい旨、人選を行う各国の大使館に申し入れをしていきます。



近隣の史跡に案内するホスト夫妻

●我慢をし過ぎている様子

家族として接しているのに、体調が悪そうだったり、困っている様子なのに、尋ねても、「大丈夫」と言うだけで、なかなか心をうちあげてくれません。もっと甘えてくれてもいいのに。

◆性格にもよりますが、一般的にヨーロッパでは自分のことは自分で判断するという姿勢が身につけており、相談するということが日本よりは少ないです。ただし、IFAでは、自分の家族だと思って何でもホストファミリーに相談するようにと話しています。少し時間はかかりますが、何度も声をかけてくださると有り難いです。

また、病院に行ったほうがいいと思われる場合は、本人に「日本の親として、行った方がいいと思う」と話し、本人の同意を得て、連れて行っていただきたいと思えます。

●パジャマは自分で買わせていい

パジャマをもってきてないようなので、声を掛けて近所の手ごろな店に連れて行き選ばせました。自分で支払う様子を見せないで、こちらで払いました。その後もお金のことを何も言っていないのですが、ホストファミリーが支払うのでしょうか。

◆そうした日用品は本人が支払います。ただし、本人が必要ないと思っている場合やホストファミリーからのプレゼントと考える可能性もあります。はっきりと、「これから寒くなり寝るときにはパジャマが必要なので、好きなものを買ってください」と具体的に話してはいかがでしょうか。あるホストファミリーは、「これは1,300円なので安いですよ。買いませんか」とその場で話しスムーズだったそうです。

●日本語のサポートはどのように

ホストファミリーとして日本語の勉強をどのようにサポートしたらよいのでしょうか。

◆特別なことはしなくて結構です。普段の生活で日本語を使っていたり、表現などでおかしなところは注意していただければ幸いです。生徒の中には12月に実施される、「日本語能力試験」を受験したいと希望して来日する者もいます。ただし、これは日本の学校生活の余力がある場合にすると本人たちには言っています。ある生徒は、夜、寝る前に必ず漢字のテストをして欲しいとホストファミリーに言うそうです。遅い時間やお疲れのときなど、できないときは「今日はできません」とはっきりとお願いしたほうがいいです。できる範囲のお手伝いをしていただくのと有り難いです。また、このプログラムでは日記を書くように指導しています。日本語でも英語でもいいとしていますが、本人が日本語でどのように書いたらいいかとお聞きしたときはご指導ください。

来日高校生の感じたこと

●文化の違いに驚く

◆地下鉄で混んでいるのに、私の隣には誰も座ろうとしなかった。

◆外人、外人と指差された。

◆水族館に行ったが、水槽が狭くて魚がかわいそう、ひどいと思った。

◆日本語を教えてくれる50歳くらいのボランティアの女性が、「女は料理とお裁縫ができないと、いいお嫁さんになれないわよ」と真剣に言われた。本国でそんなことを言う人は訴えられて警察に捕まる。

◆ホストファミリーの生徒にボーイフレンドはいるかと聞くと、高校は勉強の場所、男の友達をよくないと答えた。男女は自然に話していると思う。

◆ショック。男子と女子がほとんど会話を交わしていない。でも、家では女



体育祭で騎馬戦の馬に

子のことを聞こうとする。学校で女子に聞かれないように話すときはトイレに誘われた。なるほど、紳士なのだ。表面は違うけれど家では同じ、僕たち男子の興味はどこでも同じだった。

◆8月30日、一人で街中に出かけた。少し寂しかった。道に迷ったけれど誰とも話せなかった。まだ日本語ができないし、日本人がこんなに英語が話せないとは思わなかった。ちょっと途方にくれた。

◆お父さんの誕生日だった。私が一番驚いたのは、お父さんがプレゼントをその場で開けなかったこと。それが日本の習慣の一つとは聞いていたが、誕生日にまでそうだとは思わなかった。

●感激したこと

◆9月1日、きょう私の新しい高校へ行きました。ちょっときんちょうしたけどとてもたのしかったです。きょうしつに入ってみんなの前に立つ時にみんなは、「かわいい!!!」とっていました。びっくりしたけどよかったです。この高校でいるとこの四ヶ月はすばらしい時だと思えます。

◆体育祭があります！わああ、すごく大きな！きばせんをやりました。全部のグループ（1年生+2年生+3年生）人形を作りました。その人形はすごく美しかったです。たのしかったです！

◆ついに学園祭の日だった。私たちのテーマは「世界のアイスクリーム」。各国の民族衣装（ゆかた、中国服 etc.）を着て、私はオーストリアの衣装。たくさんのお客さんが私と一緒に写真をとって話しかけてくれました。

◆今日はすばらしかった。物理で何をやっているのかわかってきたし、新しい漢字もうまく書けた。そして私の周りで聞こえる日本語を理解できるようになったと感じた。

◆今日はおおりのちゃんの結婚式。トテモ楽しかった。かおりちゃんはちょうきれいでした。やっぱりかおりちゃんと同じような結婚式がほしいね。でもまだ若いんです。